



週刊 YEAR BOOK

1902  
明治35年

# 日録20世紀

10|20

平成10年10月20日発行  
(毎週1回火曜日発行)  
第2巻第39号 通巻82号  
平成10年7月31日第三種郵便物認可

¥560  
講談社



## 八甲田山「死の彷徨」!

大谷光瑞探検隊、中央アジアで仏跡踏査!  
病床6年、正岡子規「仰臥漫録」の日々  
ロシアの進出に国運を賭けて「日英同盟」締結!



# “仏教東漸”の路を求めて 私財を投入して敢行した3次にわたる 大谷光瑞、中央アジア



▲カシュガルで英国領事館のマイルス中佐(中央)と。中佐から右へ大谷光瑞、堀賢雄。左へ渡辺哲信、3人おいて井上弘円。徳正寺旧蔵 本多隆成提供

インドでの調査を終え  
父の死でやむなく帰国

「ヨーロッパの列強は国の政策として探検を行いました。光瑞は私財をつぎやしてあれだけの決断をしたのです。イギリスのスタインらに先を越された光瑞の胸のうちは、仏教徒として、日本人として、自分がやらなければ、という相当に強烈な思いがあったに違いありません」

こう語るのは、大谷探検隊の一員だった本多恵隆の孫にあたる、静岡大学文学部教授の本多隆成氏である。

明治三十五年八月一日、浄土真宗本願寺派の法嗣・大谷光瑞(二五)は、二年半にわたるロンドン遊学を終え、遊学先から仏教の源泉を求めて中央アジア探検に旅立った。ロンドンを出発した光瑞は、随員である本多恵隆(二六)、井上弘円(三〇)、渡辺哲信(二八)、堀賢雄(二二)の四人とロシアの首都・ペテルブルグで落ち合い、周到な準備を整える。

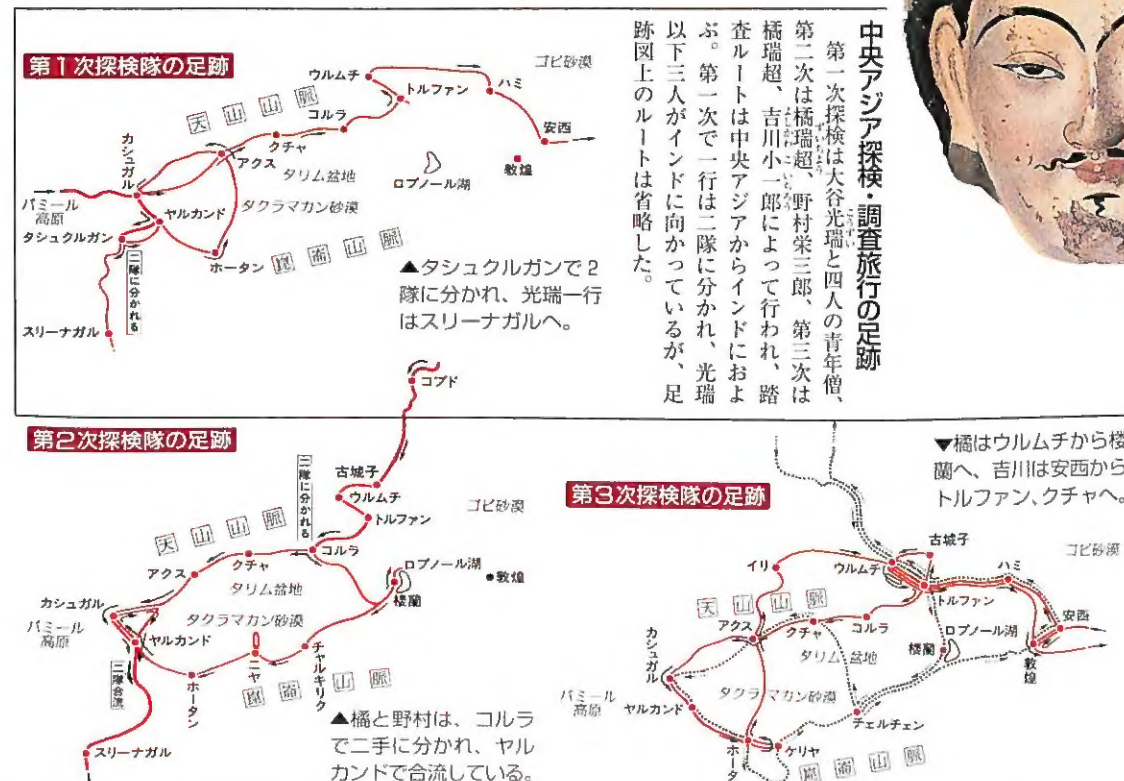
ペテルブルグを出発したのは八月二十四日。モスクワを経てコーカサスに南下、カスピ海を渡り、中央アジアの地、クラスノボーツク(現・トルクメニスタン)に上陸したのが九月一日。ここからトル

二〇世紀初頭、イギリス、フランスなどの列強は、相次ぎ中央アジアへの調査・探検に乗り出した。その成果に刺激されたのが、ロンドン留学中の大谷光瑞であった。彼は、大谷家の私財を投入して、三次にわたる探検隊を組織し、仏教東漸の経路を明らかにするべく仏跡踏査を敢行したのである。

## 仏跡踏査 を採検!



●右上は、大谷探検隊の将来品、「舍利容器」。踊り手や楽人を描いた精巧な細工がほどこされている。左は「唐宋間壁画断片」。右下の2点は、「唐塑像頭部」。









# 210人中199人死亡 指導者の認識 八甲田山 と37人全員無事生還 と準備の差が運命を分けた 雪中行軍「死の彷徨」



▲第5連隊の2日目の野営地・鳴沢。この場所から前進できなくなり、捜索の人影が群れているあたりで、興津大尉とその足を抱いた軽石2等兵の遺体が発見された。

五)率いる第三連隊は、弘前市から十和田湖沿岸を進み、八甲田山を越えて青森市経由で弘前市に戻る全長二三四キロ。これを二日間で踏破する長期行軍だが、三七人の少数精鋭で、民家に泊まることで装備を限りなく軽くした点が第五連隊とは対照的であった。

第三連隊が一足早く出発してから三日後の一月二三日午前七時、第五連隊は青森市の屯営を出発した。前後からの雪が降り続き、気温は零下六度だったが、冬の青森としては平穏な天気と言えた。

約四〇分後、部隊はまず幸畑村(現・青森市)に到着。この村で、連隊の運命を左右する出来事が起こる。「案内人をつけないと、ここから先は危険だ」と進言する村民を、兵士はこう「喝したのだ。」「軍隊の行軍に案内人などいらんっ!案内の駄賃がはしくて言うところのか!」

しかし、冬の八甲田は地元の猟師すらおそれる「魔の山」。激しい吹雪のため、よほど土地勘がないと方角を見定めることもできない。事実、第三連隊では、行く先々の集落に到着するたびに、地元の案内人を雇い入れていたのだ。だが、第五連隊は案内人のないまま、雪深い八甲田に足を踏み入れていった……。

**冷氣、疲労、睡魔に襲われ  
次々と倒れゆく兵士たち**

同日午後、天候が急変する。気温は零下一七度に達し、兵士の携帯する握り飯はカチカチに凍った。積雪は胸より深く、歩くと言ふより「雪の中を泳ぐ」状態。ソリは立ち往生し、兵士は荷物を背負って進んだ。だが猛吹雪は次第に視界を奪い、日暮れ頃にはついに方角も現在位置もわからなくなり、神成大尉は露営を命

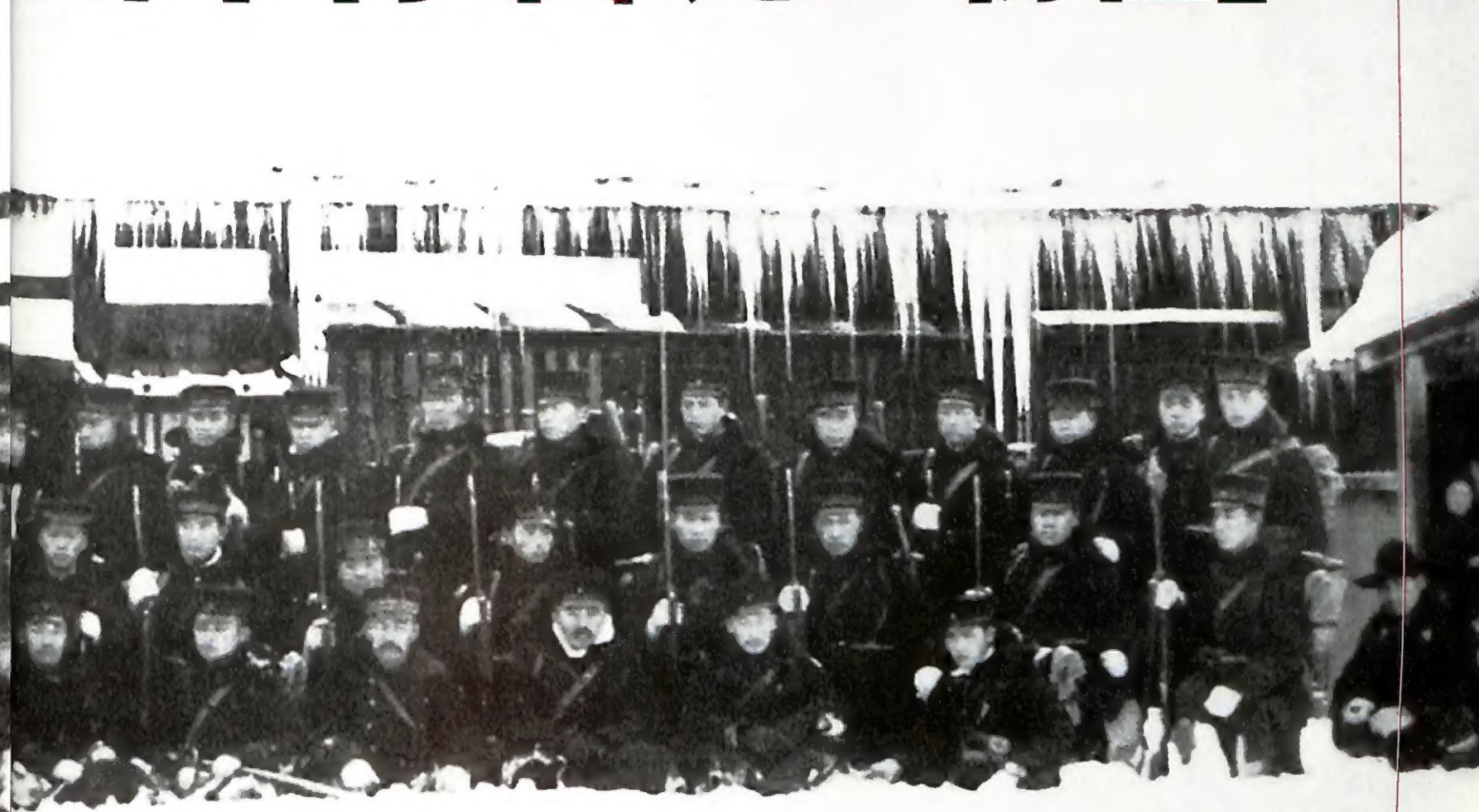


▲出発当日の1月20日、堀越村字門外の菊地健雄邸で初めての休息をとる第31連隊。



じる。しかし翌二四日になっても、いっこうに吹雪は止む気配を見せず、気温も零下二〇度まで下がった。実は、数十年前に一度という大寒波が、日本列島をおおいつつあったのだ。

荒れ狂う吹雪と積雪のため、部隊は



この地方屈指の名門・菊地家の庭前で、高畑少尉が記念写真を撮った。 岩手日報社

来るべき日露戦争に備え、明治三十五年一月、冬の八甲田山雪中行軍を敢行した第八師団の第五連隊と第三連隊。だがその結末は、まさに「天国と地獄」だった。全員が無事生還した第三連隊に対し、第五連隊員一九九人の命は、吹雪の中に消えたのである。

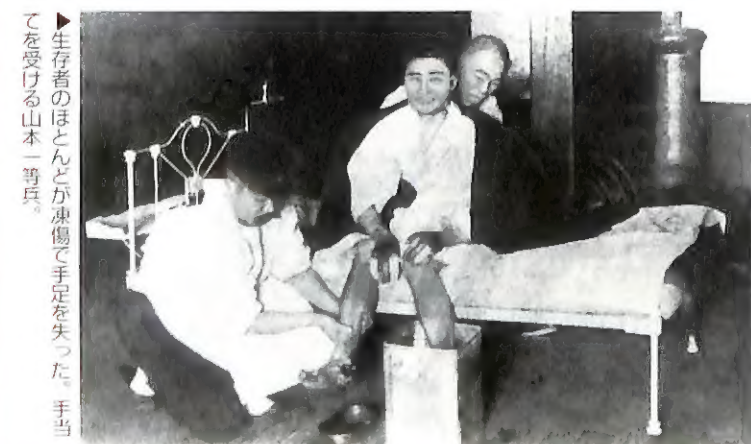
## 装備も人数も対照的な 二連隊の行軍がスタート

「天は我々を見捨てたらしいッ!俺も死ぬから、全員枕を並べて死のウッ!」

明治三十五年一月二五日午前三時すぎ、第八師団第五連隊雪中行軍指揮官の神成文吉大尉(三三)は、吹きすさぶ雪嵐の中、悲痛な叫び声を上げた。猛吹雪は視界を閉ざして道を隠し、同時に兵を疲弊させ、いくつもの命を奪っていた。

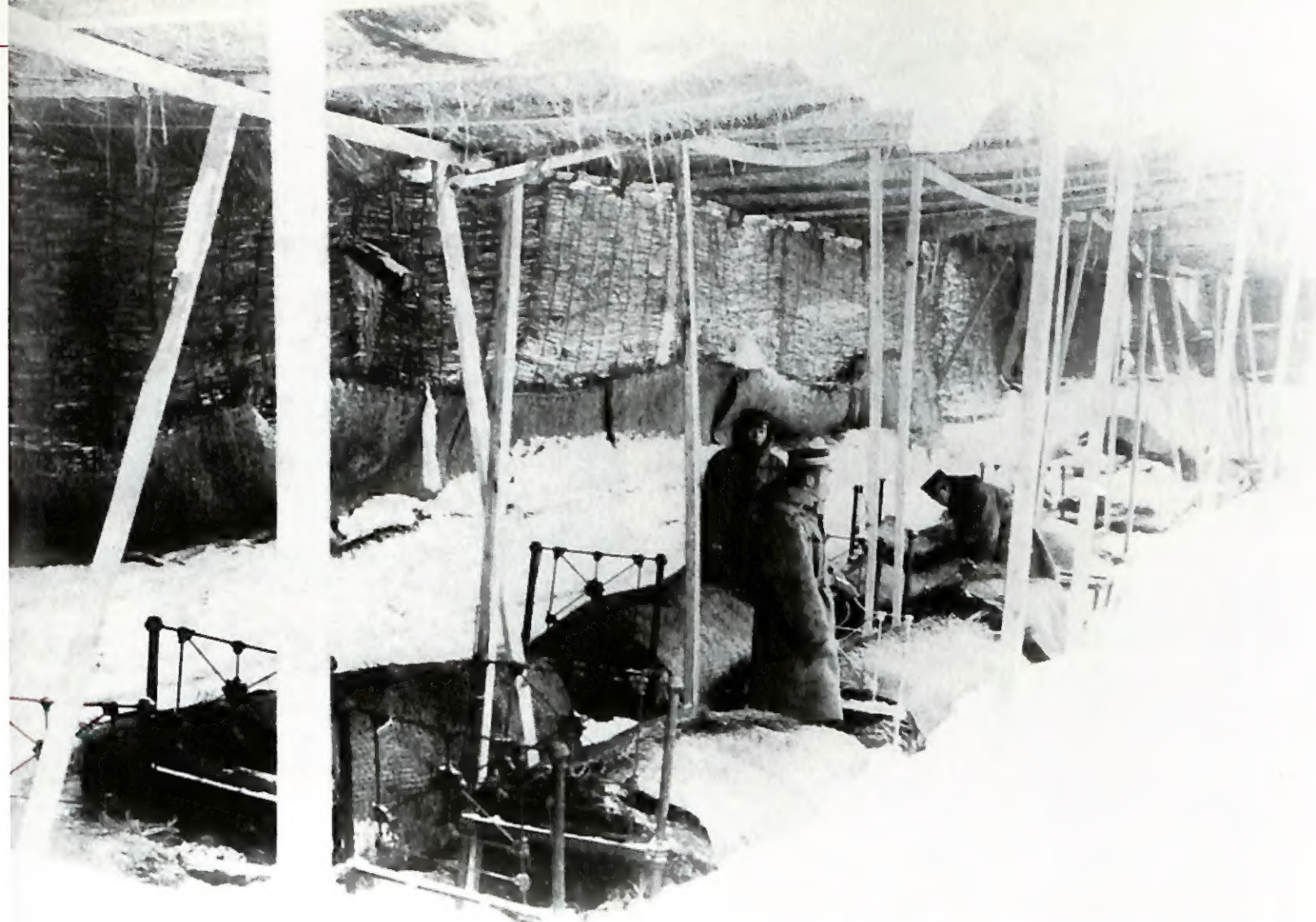
青森市の第五連隊と、弘前市の第三連隊が雪中行軍を計画したのは、ロシアとの戦争に備えてのことだった。ロシア艦隊による海上封鎖が予想されるため、八甲田山(二五八五メートル)を越えて青森平野と八戸地区を結ぶ連絡路を確保しておく必要があったのである。また、主戦場となるであろう満州(中国東北部)やシベリアの冬に慣れておくねらいもあった。

神成大尉指揮下の第五連隊は、青森市から田代平(現・青森市)までの約五〇キロを一泊二日で往復する計画をたてた。総勢二〇人の大部隊のため装備は膨れ上がり、精米約二石二斗六升、牛肉缶詰約一三〇キロなどの食料や、二二五キロの新、一〇本の小型シャベルなどの野営設備を一四台のソリに分載し、一台を四人で引くことにした。一方、福島泰蔵大尉(三三、



▶生存者のほとんどが凍傷で手足を失った。手当てを受ける山本一等兵。





▲凍りついた遺体は、田茂木野に設けられた収容所鉄のベッドに横たえられ、下から火で解凍された。最後の遺体が発見されたのは5月28日。毎日新聞社



▲福島大尉とキエ夫人の結婚記念写真。挙式は明治三十五年一月。

時間に五〇〇秒しか進めず、零下二五度の冷気は磁石すら凍りつかせて方角を見失わせた。兵士は凍傷や空腹、睡眠不足で疲労困憊し、力をつきたものから路傍にバタバタと倒れていったのである。神成大尉も進路をさがそうと必死にさまよったが、はたせず、冒頭の叫び声を上げたのだ。二二〇人いた兵士も、二四日夜には一七〇人、二五日夜に約四〇人と、みるみるうちに減少していった。中には「泳いで青森に帰る!」と叫んで川に飛びこみ急流に没するものや、枯れ木を見て「救援隊が来た!」と叫ぶものもあったという。

二六日になると、本隊に残っていたのは十数人にすぎなかった。ようやく第五連隊本部も捜索隊を派遣したが、吹雪にさえぎられて進むことができず、遭難者を発見したのは翌二七日になってからだった。発見された後藤房之助伍長(二二)は、直立姿勢のまま雪に埋もれ、手足はコチコチに凍結していた。懸命のマッサイジで後藤伍長は蘇生したが、付近からは既に凍りついた遺体がいっつか発見された。その中には、指揮官・神成大尉の遺体も含まれていたのである。

一方、第三連隊も吹雪と苦闘していた。「髪に氷糸を懸け、肌を粟を生じ、心おのき、身ふるい、口閉じ、眼くらむ」と、福島大尉は後に述懐している。だが、何度か進路を失いそうになりながらも案内人の導きにより行軍を続け、二九日に青森市内にほど近い田茂木野に到着した。

着した。そこで、第五連隊の悲劇を知ることとなったのである。第五連隊は二二〇人中一九九人が死亡。これに対し第三連隊は、全員が軽度の凍傷にかかったものの、一人の犠牲者も出さなかった。「五連隊と三連隊の運命を分けたのは、雪山に対する認識と準備の差ですね」と語るのは、「事件で見る明治一〇〇話」で八甲田山遭難事件について書いている作家の中嶋繁雄氏だ。

「福島大尉はそれまでに何回も雪中行軍の訓練を重ね、冬の八甲田の怖さを熟知していました。だから地元住民にならって靴下に唐辛子をまぶし、油紙で足先を包んでワラ靴を履くなど装備も工夫していたのです。対して五連隊は、行軍の五日前に晴天下の行軍訓練を一度したのみで、雪山をすっかり甘く見ていました」

その後、福島大尉は雪中行軍に関する論文を発表し、その成果は陸軍の教範に取り入れられる。だが、明治三十八年一月、日露戦争に参加した福島大尉は、満州・黒溝台の戦線で榴散弾を受けて倒れた。八甲田山の生還から、ちょうど三年後のことであった。

## 女たちの肖像

稲葉真弓

# みずからの出産も教材に! 東京女子医科大を創設する 吉岡弥生の「合理的」な教育

わが国唯一の女医養成機関である東京女医学校(現・東京女子医科大学)の創設者・吉岡弥生は、その生涯を徹底して女子医学教育にささげたが、合理的、近代的教育をめざした彼女をめぐる有名なエピソードのひとつに、この年の長男出産がある。三二歳での初産。彼女はみずから実験台となり、二〇時間にわたって出産シーンを学生に見せたのである。彼女は後に日本女医会会長としても活躍したが、女医会が設立されたのも、この年のこと。



▲愛国婦人会評議員、大日本婦人会顧問など、要職を歴任した。

吉岡弥生は、明治四年、静岡県豊田の医師・鷺山養斎の次女として生まれた。二人の兄も東京の済生学会で医学を学ぶ家庭環境にあつて、自分も医者になろうと決意したが、一七歳の頃、縁談をすべて断り、深夜まで物理の本を読みふける娘に父親が根負けして、上京を許したのが明治二年、一八歳の四月のことだった。

約三〇〇人中の一〇人。それが済生学会の女子学生の数だった。女性同士励まし合いながら医学を学んだ弥生は、明治五年秋、日本で二七番目の女医となり、一時は

郷里で父の経営する鷺山医院の分院をまかされた。しかし、田舎での開業医生活に飽きたらず、本場・ドイツをめざして再び上京。夜間診療の医院を開くかたわら、昼は東京至誠学院でドイツ語を学び、二八年、学院の院長・吉岡荒太と結婚した。

留学をあきらめ女医養成に乗り出すのは、三三年、済生学会が女子学生追放を決めたのがきっかけだった。母校の女子医学生の前途を思い、夫の協力のもと東京女医学校の看板を掲げたが、あるのは顕微鏡一台、試験管十数本だけ。野良猫の死骸を、解剖用の教材にする貧しさだった。

この学校に志願者が押し寄せるのは、日露戦争後である。戦争未亡人まで女医をめざし、教室を建て増して四五五年には東京女子医学専門学校として認可され、大正七年には二二〇人の新入生を迎え入れた。昭和七年、医科大学に昇格。この時、男女共学にする話もちあがったが、「女子医大は女のための学校です」と断固拒否。『女』にこだわった彼女らしい逸話である。また、「死んだら遺骸はミイラにしてほしい」と頼んだという。昭和三四年、八八歳で死去。日本女医会会長現役のままだった。

## 勝者・敗者

阿部珠樹

# “東洋の快足”藤井実が 東大運動会で樹立した 一〇〇メートル世界新の真相

この年、一月一四日、東京帝国大学で行われた陸上運動会で、二二歳の東大生・藤井実は一〇〇秒一〇秒二四の世界新記録を樹立した。この記録は、まだ国際陸上競技連盟のなかった時代、最も権威を持っていたAAU(アメリカ競技連合)の年鑑にも紹介され、世界記録として事実上公認された。

東洋に素晴らしい快足の持ち主がいるという話は、めぐりめぐって英国王室にも伝えられ、王室が所有する馬の一頭には藤井の名を取って「ミノル」の名が与えられた。スポーツ黎明期に、これだけの快挙をなした日本人がいるとすれば、誇らしい限りだが、実はこの記録、今日ではかなり疑問視されている。

一〇〇メートルの世界記録は藤井の記録の二年前、一九〇〇年の段階では一〇秒八だった。それが一〇秒六になったのが一九一二年、一〇秒三台に到達したのは一九三〇年になつてからのことである。

日本の公認記録を見て、藤井から九年後の明治四四年のものでなんと二秒〇。これを見ると、藤井の記録がいかに突出して不自然なものであったかがわかる。



▶藤井実自身は、外交官になった後も自分の記録に確信を持っていたという。

録が生まれた背景には、計測方法の問題があった。

この年、東大の運動会では、それまでの方式に代わり、最新式の電気計測器が導入されていた。従来のものに比べて断然正確という触れこみだったのだが、どうやら、飛び抜けた記録誕生の背景には、この新計測法の誤りがあったというのが、今日では一致した見方になっている。こうした混乱は何も藤井の場合に限らない。一〇年後、ストックホルム五輪のマラソン日本代表選考会でも当時の世界記録が樹立されたが、これも今日では距離計測に誤りがあったとめと見られている。

こうした誤りは、むしろ選手の不名誉ではない。

それに藤井は棒高跳びでも三三九〇の世界記録を樹立しており(こちらは正確だったようだ)、黎明期の日本陸上界では突出した能力の持ち主だったのである。



フォト＋日録で再現する365日

八甲田山「死の雪中行軍」で、この年は明けた。ロシアの「満洲」(中国東北部)支配強化に、日本政府は日英同盟締結でこたえた。五月には、戦艦「三笠」が英国から回航され、海軍拡張のため増税を強行する桂内閣は、二月、伊藤・大隈の反対の中、議会を解散した。

◀野口英世、ペニンシリア大助手に(10月)1年前に遼東、龍海の研究に訪れていた。28歳。ほとんど、ロケットエンジン研究の天才となり、海軍省医官として、海軍省の研究に成功。ノーベル賞候補となった。



日録  
20世紀1902

1月



京都府立総合資料館提供

▲「松竹」旗揚げ(1月1日)前年、京都・新京極に明治座が完成し、元旦に舞台開き。座主は、双子の白井松次郎・大谷竹次郎(24)。「松竹」の始まりだった。

▶森鷗外が再婚(1月4日)第12師団軍医部長として小倉に赴任中、美貌の新妻・志げ(写真)を得た。鷗外は18歳上の39歳。文壇活動が原因で左遷され、雌伏中だった。

◀「万朝報」3000号記念(1月27日)経営者・黒岩涙香による「懲罰的」な紙面作りで人気。内村鑑三・幸徳秋水・堺利彦を抱え、最も進歩的な新聞だった。



ROGER-VIOULET/ユニフォト・プレス

◀光緒帝、北京に帰る(1月7日)「義和団事件」で、列強の侵攻を恐れ、西太后とともに西安に脱出。前年の調和・辛丑和約により、2年ぶりに紫禁城に戻った。

▲シベリア鉄道、ほぼ全通(1月30日)ウラジオストクーハバロフスク間が竣工。ロシア横断線が開通、5月に直通運転が始まった。写真は、シベリアのオビ駅。



近藤千浪提供

◀山手線、池袋―田端間着工(1月)明治18年に開業した、品川―新宿間の品川線と連絡するために計画。翌年4月開通した。山手線が環状運転を実現したのは、大正14年だった。



明治35年 1月

- 1 水 ●白井松次郎・大谷竹次郎兄弟、京都・新京極に明治座開場(この月、松竹会を会社設立)。
- 2 木 ●東京・上野動物園に独から購入のライオン、ダチョウ(初来園)など三種、三頭が到着。
- 3 金 ●訪欧中の伊藤博文、英外相と日英同盟で会談。
- 4 土 ●大阪有数の規模誇る十日前の南大劇場が全焼。
- 5 日 ●大阪朝日新聞、ルビィき誌の使用を開始。
- 6 月 ●前年の東京手形交換高は不況を反映し、前々年より二割二分の大幅減少と新聞に。
- 7 火 ●「義和団事件」(北清事変)で西安に逃れていた光緒帝と西太后が北京に帰還。
- 8 水 ●伊、離婚承認の法案に教権擁護論者が猛反対。
- 9 木 ●大阪商業銀行、多額の欠損金で解散決定。
- 10 金 ●中国・天津の日本領事館が総領事館に昇格。
- 11 土 ●東京商船学校、越中島に新築移転。
- 12 日 ●北沢実夫、「時事新報」に「時事漫画」の連載を開始。第一回は「田舎作と兵衛の東京見物」。
- 13 月 ●不況のため横浜港の外国船碇泊ゼロと新聞に。
- 14 火 ●栃木・足利で鉦毒地獄演説会、聴衆千余人。
- 15 水 ●文部省、実業補習学校規程を改正公布。実業教科を主に、普通教育の補習を従とする。
- 16 木 ●トルコ、独にバグダッド鉄道建設権を与える。
- 17 金 ●新潟の石油三社、七組合が合同し新設設立。
- 18 土 ●警視庁、皇室・宮内省「御用」文字の商品、広告などへの使用を禁止、取締りを通達。
- 19 日 ●清国留学生対策の東京同文書院が開校。
- 20 月 ●東京博物館に高麗陶器二〇点展示と新聞に。
- 21 火 ●浦賀船渠、米軍砲艦五隻の建造を受注。
- 22 水 ●京都・京都府立大卒業生動向が新聞に。三七九人中、最多は大学院進学七五人(文部省調査)。
- 23 木 ●耐震行軍中に青森歩兵第五連隊二〇人が八甲田山麓で遭難(5月までに一九九遺体収容)。
- 24 金 ●竹内代議士ら、衆院に「北清事変」の軍による馬蹄銀横領の質問書提出(馬蹄銀分捕り事件)。
- 25 土 ●旭川で国内最低気温の水底下四一度を記録。
- 26 日 ●山形に大雪、米沢・福島間の汽車が不通に。
- 27 月 ●東京の師範学校教員試験で問題漏洩が発覚。
- 28 火 ●青森県、前年の児童就学率男八八・女五〇(「全国男女平均八九」)で、就学奨励を訓示。
- 29 水 ●米国の鉄鋼王・カーネギー、科学研究所設立。
- 30 木 ●日英同盟協約調印。露の中国、朝鮮進出に反対した攻守同盟。明治36年第一次日英同盟。
- 31 金 ●福島県郡山の田中工場野口導設計のカーハイト生産を開始。国内初の電化工業。





毎日新聞社



▲若き魯迅、日本に留学(3月)嘉納治五郎が東京に設立した、清国学生のための学校・弘文学院に官費で入学。20歳。日本語などを学び、2年後、仙台医学専門学校に進んだ。

▲戦艦「三笠」竣工(3月1日)英のビッカース造船所で建造していた1万5140トン、30.5センチ主砲4門を備える世界最新鋭艦。写真は、日本回航を前に、艦上での引き渡し記念。



▲実践女学校第1回卒業式(3月)元天皇女官・下田歌子(47、中央)に良妻賢母主義の薫陶を受けた、上流子女が初めての集まり。現・実践女子大の先輩たち。

▼水産講習所、新築(3月)日本の漁業が、沿岸から沖合・遠洋へ転換、新技術と商品開発が急がれた。現・東京水産大学が越中島に拡充・移転、その課題を担った。

〔東京水産大学百年史〕

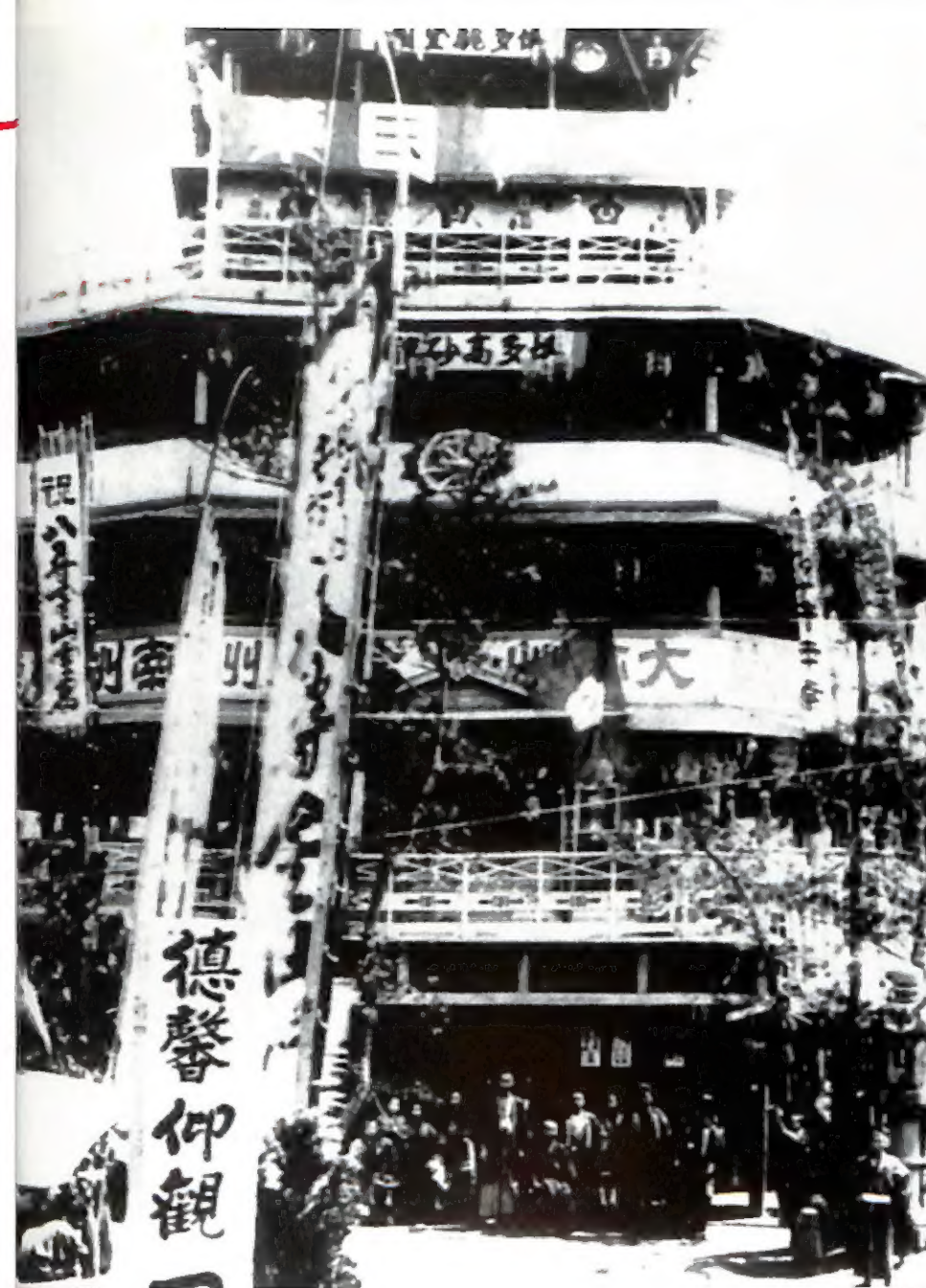


日本生命提供

▶日本生命本店ビル竣工(3月30日)契約高日本一になり、心斎橋筋に、赤煉瓦と大阪初のエレベーターが呼び物の新社屋を建築。設計・関野貞。建坪398坪、3階建て。大阪の新名所になった。



▲天満宮1000年祭(3月)祭神・菅原道真の1000回目の命日を記念し、福岡の太宰府天満宮をはじめ、全国の天神社が盛大に祝祭。写真は京都・北野社。31日に大祭を執行、街はにぎわった。



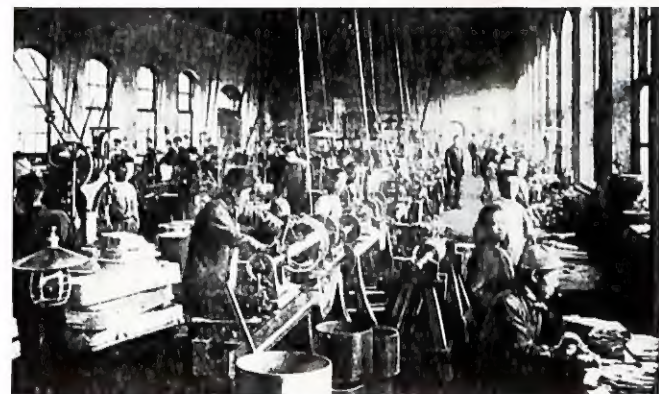
西日本新聞社

▶第1回青年トルコ会議開催(2月)アブデュル・ハミト2世の圧政に反対するアフメト・リザ(中央)らが、亡命先のパリで蜂起をめざして結集。6年後、目的を達成した。



〔イラストレーション〕

▶芝浦製作所がフル操業(2月)不況だったが、軍需を中心に、発電機など重電機の需要が伸び、業績は上がった。写真は第2工場。明治37年には、三井傘下から独立した。



〔明治新聞〕

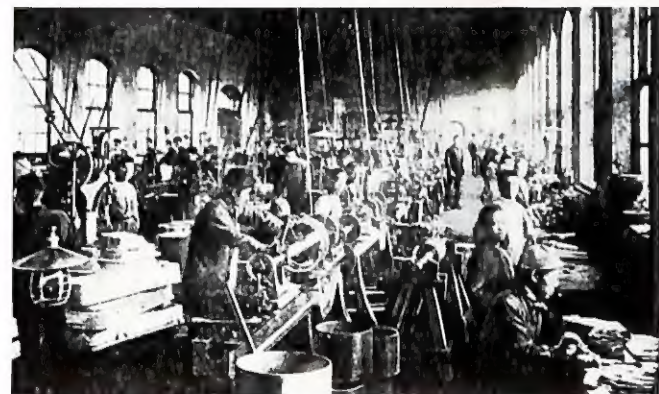
◀博多に「九州の12階」(2月)高さ30メートル、木造8階建ての「高砂館」が中洲に出現、人気を集めた。建主は八尋利兵衛らで、入場料と看板の広告代で、施工費は十分にまかなえた。



▲初の普選法案(2月12日)活発になってきた普選運動を受け、自由民権運動の議員・河野広中(52、写真)や花井卓蔵(33)らが衆院に提出。否決されたが、以後、毎議院に提出された。



▲木村栄、2項を発見(2月4日)岩手・水沢緯度観測所で、極運動以外の経度に関係な年周変化を記録、ドイツの天文学会誌に発表した。31歳。写真右は、田中館愛橘。



〔明治新聞〕

明治35年2月

- 1 (土) 戦艦「三笠」、英・ビッカース社で完成。  
一高記念祭で「嗚呼玉林に花をうけて」発表。
- 2 (日) 三党派合同社会党(PSF)結成。
- 3 (月) 衆議院、骨格税法案を可決(4月5日公布)。
- 4 (火) 足尾銅毒被害民一三四人が農商務省に陳情。
- 5 (水) 清国、駐清各国大使に天津還付を正式要求。
- 6 (木) 三越呉服店、賞金一〇〇〇円の呉服地味図案募集。
- 7 (金) 東京、深川の温泉湧出騒ぎは、地質協会が付近の銭湯の熱湯がもれたものと断定し、沈静。
- 8 (土) 北海道土功組合法公布。組合結成し未成・未聖地の水田化を促進(4月1日施行)。
- 9 (日) 全国のマッチ製造業一八四社が合同、日本燐寸トラスト設立契約を締結。
- 10 (月) 政府、人員削減目標は各省、割と決める。
- 11 (火) 警視庁、勤王場取締規則を改正公布。消火器の設置など火災予防に主眼。
- 12 (水) 新派の伊井野峰ら真砂座で「天の網島」を初演。
- 13 (木) 露領ポーランドで「ツァーリの歌」音唱を生徒が拒否したため、高等中学など閉鎖処分。
- 14 (金) 門司港で香港向け英貨客船から密出国の日本人女性一六人発見され、手配師とともに検挙。
- 15 (土) 警視庁、二六新報社が東京・向島で四月開催予定の労働者大懇親会を治安妨害理由に禁止。
- 16 (日) 露が、日英同盟の原則に同意の共同宣言を提出(後)に中村遊水池案を提案。
- 17 (月) 証毒調査委員会官制公布。証毒地の調査、報告など(後)に中村遊水池案を提案。
- 18 (火) 伊・カルソ、一流歌手初のレコーディング。
- 19 (水) 本州最東端の若手・鮎ヶ崎に灯台が完成。
- 20 (木) 露で農民暴乱始まる(4月15日、内相を暗殺)。
- 21 (金) 東京帝大医科大学に歯科講座設置。
- 22 (土) 金沢三五連隊で腸チフス患者続出、と新聞に子九歳から二歳以上に。
- 23 (日) 伊、未成年者の労働年齢制限を引き上げ、男子は九歳から二歳以上に。
- 24 (月) 英議院、バルフォア法(体育促進法)可決。
- 25 (火) 文部省、国語調査委員会を設置(大正2年)。
- 26 (水) 森鷗外、第一師団(東京)軍医部長に就任。
- 27 (木) 日本興業銀行設立(総裁・森田寿一)。
- 28 (金) 陸軍大臣、児玉源太郎の後任に寺内正毅就任。
- 29 (土) 東京市内、六カ所の警察分署を廃止。
- 30 (日) 愛国婦人会、東京・九段で第一回総会を開催。福井市で大火、三〇〇戸焼失、六人死。
- 31 (月) 財政難の京都市、道路拡張事業を一時的に中止。

明治35年2月

- 1 (土) 清国、總定禁止令公布。近代化の一環。
- 2 (日) 定尾銅山鉱毒被害の婦人三十余人、東京で窮状を訴える(20日、貴族院前で座りこみ)。
- 3 (月) 生糸輸出好調で過去一〇年間で倍増と新聞に。
- 4 (火) 天文学者・木村栄、地球緯度変化に、一年周期で現れる二項成分の存在を発見。
- 5 (水) 広島区裁、第一連隊長・栗屋幹之などを馬蹄銀押収(13日、憲兵隊、栗屋連隊長を勾引)。
- 6 (木) 文部省、中学校教授要目編纂。各教科内容を学年別に指定し、教科書中心の授業に転換。
- 7 (金) 大蔵省、証券条例改正法を公布。割引発行制度を創設し、市場での流通をはかる。
- 8 (土) 東京の玉川砂利電気鉄道(現・東急新玉川線)、敷設免許を取得(明治40年開通)。
- 9 (日) 売上金五〇〇〇円を着服、吉原で使いはした一四歳の自転車販売支店長が検挙される。
- 10 (月) 東京、日比谷公園に桜など植樹開始と新聞に。
- 11 (火) 石川島造船所構内の船が転覆、職工七人溺死。
- 12 (水) 河野広中、花井卓蔵、初めて普選選挙法案を衆議院に提出(25日、否決)。
- 13 (木) 不潔な櫛による女性の禿頭病流行、と新聞に。
- 14 (金) 慶応義塾生が日英同盟を祝い英大使館に炬火行列。各地でもさかんに祝賀行事が続く。
- 15 (土) ペルリンで高架鉄道、地下鉄が開通。
- 16 (日) 大阪で人頭を黒焼きにしたとする薬品の売買が発覚。五〇歳の男を墳墓発掘容疑で検挙。
- 17 (月) バルセロナで八万人がゼネスト(20日、非常事態宣言。鎮圧に軍隊出動し死者四〇〇人)。
- 18 (火) 横浜市に中国人の帰化出願が続出、と新聞に。
- 19 (水) 仏、一歳児の種痘を義務化。
- 20 (木) 東京電気鉄道、市内外線敷設の認可を受ける。房総半島沖に座礁した英貨物船を、横浜の鋼鉄商が付属品含め三万六千円で落札。
- 21 (金) 房総半島沖に座礁した英貨物船を、横浜の鋼鉄商が付属品含め三万六千円で落札。
- 22 (土) 上海の資本家団体、上海商業会議所を設立。
- 23 (日) 東京、小石川の伝道院で八甲田山遭難軍人の法会式。夜間、境内の幻灯映写に「万人参集」。
- 24 (月) 三年度予算、三億七〇四三万円(うち軍事費二八〇万)を公布。
- 25 (火) 伊藤博文、欧米から帰国(日露協定は失敗)。
- 26 (水) 東京瓦斯、炊飯用ガスがまどの専売特許取得。
- 27 (木) 長崎、松島炭鉱で労働者一〇〇人が給料への不満などから納屋頭宅を襲撃。
- 28 (金) 米国アジア艦隊司令官、ルイズ・ケンプ参内。





証言・あの日この日  
中里介山(17)

5月4日(日)〈生徒には馬鹿にされる。頭痛はする。父には怒られる。銭は一文もなし。検定試験は近づく。吾ながら、気が屈せざるを得ない〉(中里介山『壬寅日誌』)

自由民権運動の余熱がまだ残っていた明治18年、神奈川県西多摩郡(現・東京都)に生まれた介山は、この頃、母校の西多摩尋常高等小学校に勤務、代用教員として毎日悶々の日々を送っていた。正教員の資格を取るために教員講習会にかよいつながら熱心に勉強していたが、この頃、久保川きせ子という、クリスチャンで年上の女性教師に恋をする。元々社会的関心の強かった介山は、彼女の影響もあってキリスト教への関心を深め、青梅の福音協会にかよい、キリスト教的社会主義に接近していく。正教員資格を取得するが、翌年には教職を辞し、上京。やがて社会主義運動や文学に身を投じる。(山崎行太郎)

▶伊豆大島・三原山に地学協会探検教室(5月)各地を踏査してきた協会が、地学普及を兼ねて初めて大島探検を企画。会員の鳥居龍蔵ら4人を案内人に、一般応募者50人と「探検」を実施した。



【風俗画報】



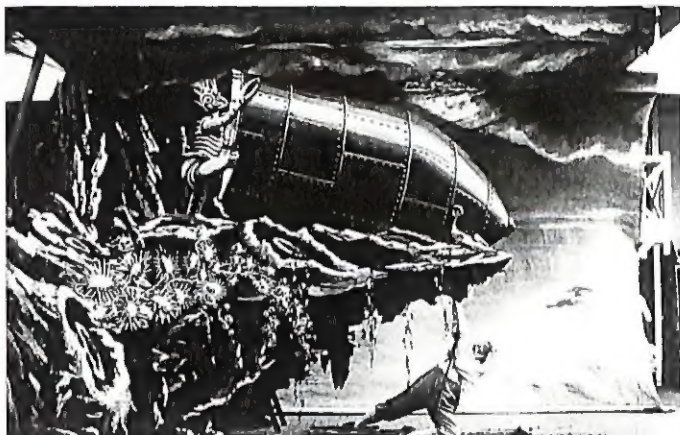
ユニフォト・プレス



◀韓国に「1円」登場(5月20日)第一銀行釜山支店が、約束手形として発行。韓国内で日本通貨と交換させた。さらに仁川、漢城(現・ソウル)でも発行、明治38年の韓国中央銀行代行への布石とした。

▶ボア戦争終る(5月31日)ボア人ゲリラが英軍に無条件降伏。金とダイヤモンドを求めて、南アに侵襲してきた英軍の圧倒的戦力の前に屈し、「ボア共和国」は英植民地に併合された。

▼台湾、大討伐(5月21日)植民地支配に対する土着勢力の武装蜂起に、台湾総督府が本格的な鎮圧を強行。二千人を殺害し、全域支配を確立した。写真は日本軍討伐隊。



▲初のSF映画公開(5月)リュミエール兄弟開発のシネマトグラフを使い、仏の映画監督・メリエス(40)が「月世界旅行」を完成。トリックを駆使して空想的世界を作りあげ、特撮の先駆となった。写真は撮影のセット。



ナショナル・ジオグラフィック・マガジン、アメリカン・フォト・ライブラリー

▲仏領マルティニーク島で大噴火(5月8日)カリブ海のリゾート地を悲劇が襲った。港町・セントピエールは、プレー火山からの溶岩におおわれ壊滅、死者は4万人に達した。

▶日蓮開宗650年祭(4月28日)上野公園のほか、各地の日蓮宗寺院で記念祭を盛大に挙げる。写真は、大会委員。右は指導者の田中智学(41)。相道復古・宗門改革をめざした。



【風俗画報】



【風俗画報】



毎日新聞社



▲各地に幼稚園開園(4月)明治32年に、遊戯・唱歌・談話・手技の保育4項目が定められ、この頃から広く庶民に支持され、40年には全国386園が開園。写真は、堺市立第一幼稚園の入園記念。

▲宮崎滔天、浪曲入門(4月)孫文を支援し「三十三年の夢」を連載中に突然、桃中軒雲右衛門に弟子入り。前列中央・雲右衛門、前列右端・滔天(31)。



【太陽】

▶第1回日本連合医学会開く(4月2日)東京の東京音楽学校に二十余人が参集。講演会も行われ、北里柴三郎、高峰譲吉らが最新の研究成果を発表した。

▶大原孫三郎、女子小開校(4月)倉敷紡績の寄宿舎内に設け(後の倉紡学校)、従業員教育を実施。9年後には、男子用の工手学校(写真手前)も開校した。



明治35年 5月

- 1(木) 藤本ビルブローカー(日興証券の前身、開業)
- 2(金) 米国のハワイ各島の水産物調査開始と新聞に
- 3(土) 宮城・金華山の海軍望楼が業務開始
- 4(日) 東京・九段にパノラマ館(国光館、開館。日清戦争の激戦地などを模し、軍事思想を奨励)
- 5(月) 正岡子規、随筆「病牀六尺」を新聞「日本」に連載開始(9月17日)
- 6(火) 前年韓国から帰国の徳森儀助、青森市長就任
- 7(水) 神奈川屈指の寺院・西来寺で出火、東京湾砲兵連隊も応援消火するが本尊・宝物類を全焼
- 8(木) カリブ海の仏領マルティニーク島のプレー火山が爆発、住民ら4万人が死に
- 9(金) 文部省調へて全国の図書館数は四三と新聞に
- 10(土) 水戸裁判所で出火、庁舎を全焼
- 11(日) 米艦「八重山」が根室沖で座礁大破
- 12(月) 米国の炭鉱労働者一五万人がスト(10月13日大統領が調停、24日一〇割賃上げなどで妥結)
- 13(火) 馬蹄銀分捕り事件で軍法会議。全員無罪判決(14日、栗屋連隊長ら停職の行政処分)
- 14(水) 山本権兵衛海相、伊東祐兵軍令部長ら、横須賀で英東洋艦隊司令長官と日英共同作戦検討
- 15(木) 飯島かね子、家政学、速記術研究のため渡米
- 16(金) 陸軍・気球、鉄道、電信など特科隊設置を決定
- 17(土) 工場機械化でタバコの婦人内職減少と新聞に
- 18(日) 英が回航の戦艦三笠、横須賀に到着
- 19(月) 春の天候不順で各地養蚕四割減収と新聞に
- 20(火) 米軍、米西戦争以来駐留していたキューバから撤退、米国防衛下にキューバ共和国成立
- 21(水) 横濱市、水道敷設公債九〇万円をロンドンで発行のため、英・サミュエル商会と契約調印
- 22(木) 郵政調査会、足利で被害民の健康診断を実施
- 23(金) 台湾・香港などアジア各地でコレラ蔓延のため、内務省は全国主要港に検疫強化を訓令
- 24(土) エビス麦酒など二七物が東京に横行と新聞に
- 25(日) 横浜で輪友同志会の自転車競走、二万人見物
- 26(月) 第二師団(仙台)で火災、兵舎など八棟を焼失
- 27(火) 景気不振で前年比一割の減収と日本郵船発表
- 28(水) 仏、下院選挙で左派が躍進(6月2日、ルノー内閣総辞職、コンポの急進党内閣成立)
- 29(木) 皇室誕生令を公布、皇子の命名法などを規定
- 30(金) 大阪の紡績一四社、操短など不況対策を協議
- 31(土) 南アのボア人ゲリラ、英軍に降伏。ブレトリアで調停条約に調印。ボア戦争終結

明治35年 4月

- 1(火) 官設鉄道運賃値上げ。新橋から品川六銭、横浜(一銭)名古屋(二円九三銭)大阪(二円七五銭)
- 2(水) 第一回日本連合医学会。北里柴三郎「結核病、高峰譲吉「アドレナリン」を講演
- 3(木) 通信省、二等郵便局一〇〇カ所増設を開始
- 4(金) 甲武鉄道現・中央線、小金井親睦列車を運行
- 5(土) 衆院議員選挙法改正。市部選出議員を増加
- 6(日) 日本体育会設立総会を東京で開催
- 7(月) 石油のデキサス社(現・テキサコ)、創立
- 8(火) 露清国、満洲条約調印。露は一八カ月以内の撤兵に同意(10月第一期のみ履行)
- 9(水) 東京・京橋に住民らの寄付で警察派出所完成
- 10(木) 英主立内科研究所、癌の治療研究計画に着手
- 11(金) 警視庁、流行病予防のための清潔令を制定。不潔な便所には石灰を散布すること、など
- 12(土) 紀州徳川家の蔵書をおもにおさめた南葵文庫、東京・麻布で開庫式(一般公開は明治41年)
- 13(日) 京都・船岡精神病院で火災、患者一七人焼死
- 14(月) 米国有数の百貨チェーン店、J.C.ペニーの前身「ゴールデン・ルール・ストア」が開店
- 15(火) 奈良・興福寺、五重塔の落慶法要を挙げる
- 16(水) 横濱・野毛貯蓄銀行で職員四人が最下級給料一〇円に増俸要求リスト(27日、全員解職)
- 17(木) 陸軍参謀本部次長に田村治与進、軍務局長に宇佐川一正が就任(対露作戦の検討始まる)
- 18(金) 東京電気鉄道など三社合同し、東京市街鉄道を設立(翌年9月15日、電車運転を開始)
- 19(土) 星亨、殺害控訴審、伊庭想太郎に無期判決
- 20(日) 比の反米ゲリラ司令官・サモラ、米軍に降伏
- 21(月) 神戸でベスト発生、患者宅周辺の交通を遮断
- 22(火) 東京・湯島神社で菅原道真没後一〇〇〇年祭
- 23(水) ロンドン・ニューヨーク銀相場が連鎖暴落
- 24(木) 宮崎沖で水雷艇演習中に一人が墜落、溺死
- 25(金) 文部省、高校と大学予科入試に総合選抜制を採用(全国同日試験、成績順に希望校へ配分)
- 26(土) 中国人留学生・章炳麟ら東京の「中国亡国記念会」が中止命令のため、孫文らと横浜で開催
- 27(日) 札幌農学校に初めて清国学生入学、と新聞に
- 28(月) 前年の北海道移住は五七八戸、二万六二〇〇人。出身地は新潟、石川、青森の順
- 29(火) 米政府、中国人移民排斥法の全土適用を決定
- 30(水) 北海道で漁船七十余隻遭難、二二〇人が水死



▼サラ・ベルナール、凱旋公演(6月16日)パリ、米国での成功を引っさげてロンドン公演。57歳の年齢を感じさせない「椿姫」の艶姿に、観客は息を呑んだ。

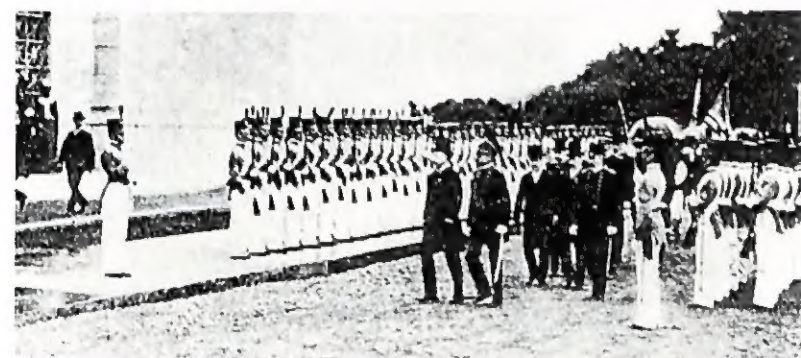


北川太一提供



▲徳川慶喜、公爵親授(6月3日)田中宮内大臣ら参列のもと、宮中で行われた。慶喜は64歳。大政奉還後、徳川家達が宗家を継ぎ、閑居。天皇に恭順の意を示し続けた。

▲東京新詩社、月例会(6月)明治32年来、与謝野鉄幹(29、前列右端)、上田敏(27、前列左端)らを中心に活動。この月の例会に高村光太郎(19、後列中央)が出席した。



▲米陸軍士官学校、創立100周年(6月5日)ウエストポイントの記念式典に、ルーズベルト大統領が招かれ、卒業証書を授与した。

▼秩父宮誕生(6月25日)午前7時30分、皇太子妃が迪宮裕仁(昭和天皇)の弟宮、第2子を出産。7月3日、淳宮雅仁と命名された。写真は4歳の迪宮と3歳の淳宮(右)。



▲特急「20世紀号」発車(6月15日)米国のセントラル鉄道に登場。展望車・ビューフェ・図書室のある豪華列車で、ニューヨーク・シカゴ間を20時間で走った。

「近事画報」



徳川文政提供 松戸市歴史資料館

「現場」を歩く

山本徹美

神戸

三井物産も抜いた鈴木商店、名番頭金子直吉の成功と破綻

明治三十五年一〇月一日、神戸市栄町四丁目四五番屋敷に本店をおく鈴木商店が、神戸区裁判所に合名会社の登記をした。当時、わが国の総合商社業界では財閥系の三井物産、三菱商事が覇権を争っていた。そこに個人貿易商の鈴木商店が果敢に斬りこんでゆくのだが、その第一歩がこの組織変更であった。

神戸で創業。おもな業務は砂糖の輸入・販売だった。同一九年、高知から二二歳の青年貿易商・金子直吉が雇用され、樟腦の輸入を手がける。直吉は台湾産樟腦油の独占販売権を獲得、これを契機に会社は急成長する。同二七年岩治郎が死去し、よね未亡人が店主に就任すると、直吉は番頭として同店の運営を二任された。

合名会社鈴木商店はロンドン、ハンブルク、ニューヨークと世界各地に代理店を設置。直吉は代理店からの情報を分析、大胆な商品買い付けと販売を展開する。第一次世界大戦が勃発すると、億単位の商取引をこごとく成功させ、利益を事業拡大に投下。鈴木商店は鋼材、造船、化学、繊維など、あらゆる業種の会社を傘下におくコングロマリットに変身した。

大正六年、鈴木商店の年商は一五億四〇〇〇万円、三井物産を四億円以上も引き離し、業界トップに立つ。が、第一次世界大戦の終息とともに経営難に陥り、昭和二年倒産。

鈴木商店の創業地を訪ねてみた。四五番屋敷は、現在の中央区栄町通四丁目二番地に相当する。大通りと並行して南に裏通りがある。その小路に面して建つ木造二階建て家屋だったというが、近隣の住人で鈴木商店と金子直吉を知る人はまったくいなかった。

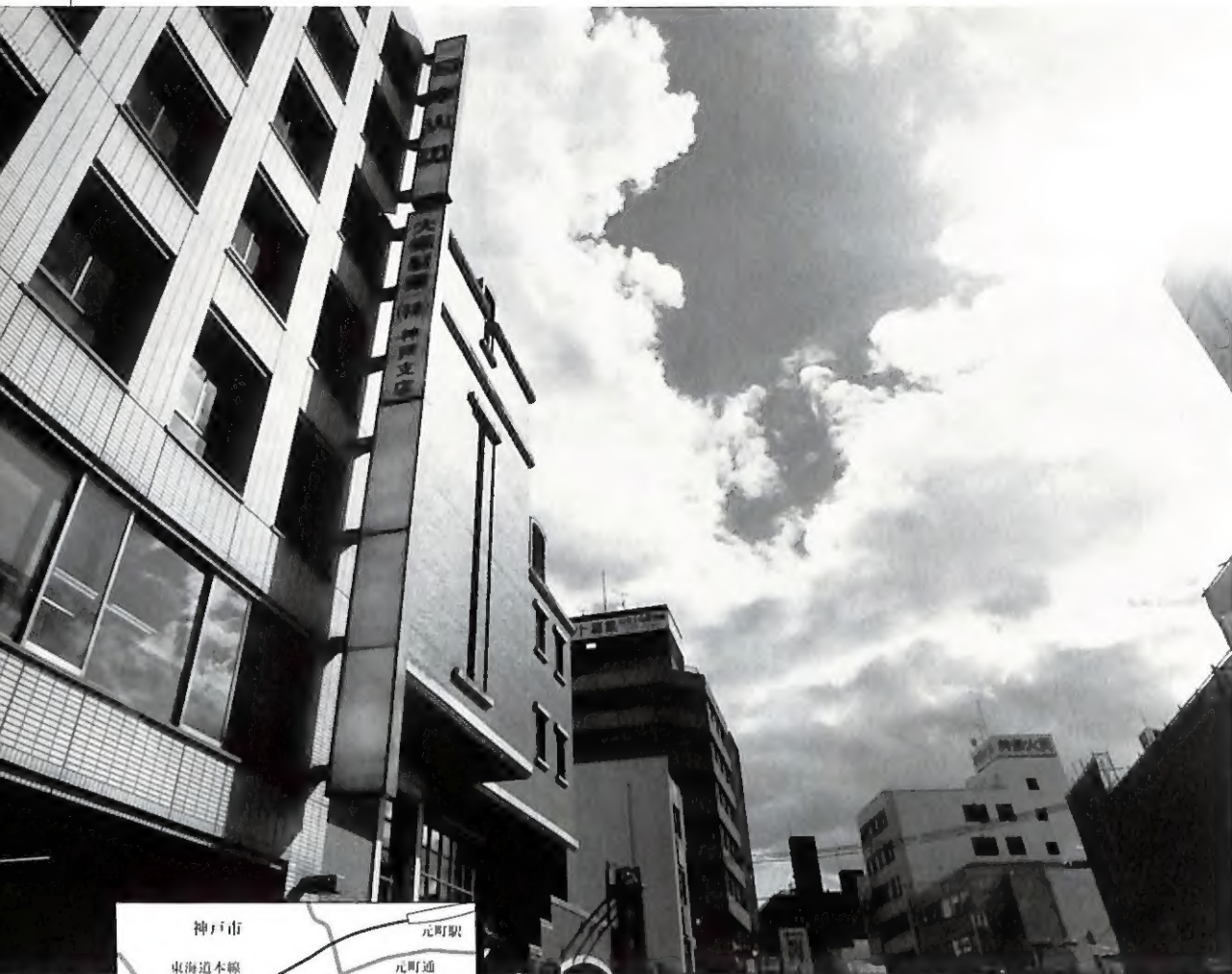
鈴木商店の傘下には、倒産時七八社あった。それぞれ再建されるのだが、主要企業には、日商(現・日商岩井)、

神戸製鋼所、帝人などがある。昭和三年、金子直吉はこれも鈴木系列企業の太陽曹達(現・太陽鋳工)に招かれ、以後、同一九年に病没するまで相談役をつとめた。太陽鋳工のトレードマークは鈴木商店と同じもので、同社・鈴木治雄会長は、創業者の直系。金野和夫取締役が指摘する。

「番頭が誠実である、という点は金子相談役以来、当社の伝統と言えます」

と、称していた。株式会社への組織転換を否定、株主に配当するくらいなら銀行から借りた方がましと考える、それが破綻へとつながったと指摘される。

彼の私生活は真面目そのもの。酒、タバコをたしなまず、賭事、待合遊びの類には縁がなく、接待もやらない。晩年まで借家住まいで私的蓄財には無関心だった。生涯一度も「社長」の椅子に坐らなかった金子だが、日本を代表する「名番頭」として、もっと評価されてしかるべきだと思う。



▲栄町通に面して建てられた日本火災ビルの裏手が、鈴木商店創業の地にあたる。但馬一書

▲栄町4丁目45番屋敷の鈴木商店本店。幻の総合商社の原点となる、木造2階建て家屋。



▲栄町4丁目45番屋敷の鈴木商店本店。幻の総合商社の原点となる、木造2階建て家屋。

明治35年6月

- 山口・赤間関市が下関市と改称。
- 輸出不振、前年比二割五分の減少と大蔵省。
- 取引所改正公布。取引所の資本金最低額を三万円から一〇万円に引き上げなど。
- 徳川慶喜に公爵、西郷隆盛の次男、西郷實太郎に侯爵位を授与。
- 宴会に必要な芸人・音楽・大道員などを調達する余興興行社が東京に開業、と新聞に。
- 東京・新橋駅の入場券三銭が五銭に値上げ。
- 内田魯庵、「社会百面相」刊行。
- 株式市場、取引所改正に動揺し大暴落。
- 北海道庁、阿留島島民にトドの捕獲を許可。
- 静岡の全産業大会に出席の外相・小村寿太郎、露への緑茶輸出が有望と演説。
- 袁世凱、直隸總督、北洋大臣に就任。
- 米国人、A・キヤランが、郵便物の宛名が外側から見える怒りつき封筒を発明、特許取得。
- 海軍常備艦隊隊長に加藤友三郎大佐が就任。
- 北里柴三郎、同仁会を創立。中国・韓国の医術、衛生の改善が目的。
- 警視庁、男女混浴禁止など遊泳場規則を通過。
- 北京列国公使會議「義和團」賠償金分配議定書調印(日本への分配は四七九万円)。
- 東京に私立大橋図書館(現・三原図書館)開館。動物虐待防止会の発起人会を、東京で開催。
- 米国のセントラル鉄道、ニューヨーク・シカゴ間で豪華特急「20世紀号」の運行開始。
- 田中正造、官吏侮辱事件で有罪判決を受け入獄。
- 海軍省と通信省、無線電信の共同研究開始。
- 伊東忠太、大同の雲崗石窟と石仏を発見。
- 東京電氣、電球のガラス球と口金の製造開始。
- 農商務省、製鉄事業調査会を設置。
- 陸軍省、北海道高地方に軍馬放牧場を設置。
- 芝罘、芝罘湖の軍艦万石による密狩り会。伐採され、約五〇〇坪の宅地に、と新聞に。
- 皇太子が皇山で新来の自転車に試乗と新聞に。
- 淳宮雅仁親王(秩父宮)誕生。
- 陸軍、愛知の試験場を二七、加農砲試射実施。
- 農商務省、蚕業講習所に女子対象の製糸科新設。
- 独・オーストリア、伊三同盟が六年間延長。
- 松本一誠訪問の生糸運送業者一〇〇〇人、買上げを求めスト決行。
- 内務省、足尾地区に武器・爆発物の携帯禁止令。



## ベストセラー

# 文体に大胆さと緊張感！ 森鷗外訳『即興詩人』刊行

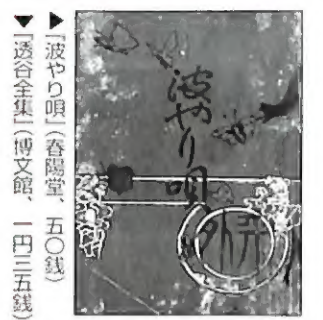
この年、森鷗外の名訳『即興詩人』が刊行され、そのロマンチズムと斬新な翻訳ぶりが多方面に衝撃を与えた。童話作家として知られるデンマークの作家・アンデルセンの小説を、九年の歳月をかけて翻訳したもの。もともと鷗外自身は、軍職で多忙のため長くかかったのであって、それで全体の統一感が得られなかったのは残念という意味のことを記している。しかし、その文体には、鷗外ならではの大胆さと緊張感があつた。

「羅馬に往きし」とある人はピアツァ・バルベリニを知りたるべし。こは貝殻持てるトリイットの神の像に造り做したる、美しき噴井ある、大なる広こうちの名なり」という冒頭の一節からこの調子を崩すことなく、若き即興詩人・アントニオの波瀾万丈のロマンを活写してみせた。この翻訳は、第三版の序文で鷗外自身が「国語と漢文とを調和し、雅言と俚辞とを融合せむと欲せし、放胆にして無謀なる嘗試」と記すほど、新しい試みであつた。こんな一節もあった。

「友を殺し、女に別れ、国を去りて、凶賊の馬背に縛られ、カムパニアの広野を馳す。一切の事、おもへば夢の如く、その夢は又怪しくも恐ろしくらずや……」

またこの年、フランスの作家、エミール・ゾラの影響を色濃く残した小杉天外の『波やり唄』が刊行され話題を呼んだ。淫乱の血を受け継いでいるとされる女性ヒロインのこの小説は、客観的描写をよしとする小杉天外の、小説理論の実践でもあつた。序文に天外は「自然は自然である、善でも無い、悪でも無い、美でも無い、醜でも無い……小説また世界の自然である」と記し、あくまでも客観的に描写することをめざしていた。

さらにこの年、八〇〇円におよぶ『透谷全集』が刊行されている。戸川秋骨の序文や平田亮木、島崎藤村の序文を含む大部の本で、「万物の声と詩人」などのエッセイや「三日幻境」「双蝶のわかれ」「みずのうた」といった作品のほか、ロマンチックな劇詩「蓬萊曲」もおさめられていた。



日本近代文学館提供(3点とも)

## スターと名場面

# 明治のアニメ「写し絵」で 玉川文楽ら演出者が活躍

すでにこの年には「活動写真」という言葉が定着していたが、写真が動くということへの驚きと関心は、次第にソフトを重視する方へ向かい始める。しかし、その後に見られるようなスターはまだ誕生していない。明るい画面を作れないというハード面の課題や、クロースアップができない撮影技術的な問題を抱えていた時代だったから、スター中心に映像が展開するといった作品はまだ望めなかったのである。

同じ時代にビジュアルな見世物として有力だったものに、「写し絵」がある。写真でなく絵を使って、これに動きを与えて見せるという、発想としては映画に近いものだった。暗い会場でスクリーンに映し出される画面には技巧が凝らされ



▲まだ映画自体が珍しかった頃で、乗りものを写す映像が少なからずあつた。写真は、日本橋を写したもの。

「写し絵」の種板(フィルムにあたるもの)で、同じ場面の表と裏。これをたくみに操作して、お坊さんがカネをたたくように見せることができた。

運動も誕生直前の胎動期に入っていた。



▶日本製映画の第1号とされているフィルム。芸者の踊りが写されている。

小林源三郎蔵

## モノ語り'02

# 「アップライトピアノ」「ガスマントル」、官製「記念絵はがき」 本邦初の製品が次々登場！



▼官製の絵はがきが発売された  
この年6月18日から、万国郵便連合加盟25周年を記念した「記念絵はがき」が発売された。官製の絵はがきとしてはこれが初めてで、6月10日から始まっていた25周年記念展と並行して売り出されたもの。価格は、6枚一組で5銭だった。

逓信総合博物館蔵／江頭徹

▼オルガンからピアノの時代へ 輸入オルガンの修理にヒントを得てオルガン製造を始めた山葉寅楠(とら

くす)は、明治30年に日本楽器製造(現・ヤマハ)を設立。33年にはアップライトピアノの生産を開始していた。しかし、この頃はまだ、部品は輸入にたよっていたので、寅楠はその国産化をはかった。そして明治40年頃には、ピアノの最も複雑なメカニズムも、自社生産できるようになったのである。



▲レコードの時代が近づいてきた  
すでに「世紀末」に発明王・エジソンの手で開発されていた蝋管(ろうかん)式の蓄音機が、日本にも入ってきた。写真は、この年に製作され、日本人が購入したスタンダード・タイプのもの。ソフトの蝋管は、円筒形の箱に入れて販売されていた。

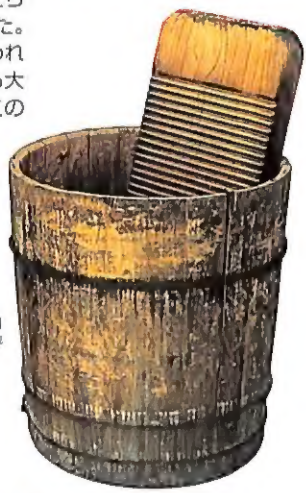
▼街灯もぐんと明るさがアップ 照明器具としてのガス灯の明るさを、およそ5倍もアップさせた「ガスマントル」が、この頃、東京瓦斯から発売された。綿糸や人造絹糸で編んだ袋に、発光剤トリウム、酸化セリウムを吸収させたもので、これにより、明治20年代から始まっていた電灯との競争で押され気味だったガス灯が、その存亡の危機から救われたのである。価格は1個16銭以上で、最上品は1円40銭だった。



がす資料館提供

▲プロの洗濯用具に洗濯板があつた 電気洗濯機が各家庭に普及するまで、洗濯にたらいと洗濯板は必需品だった。しかしそれも、一般に使われ始めたのは、明治末年から大正時代にかけてのこと。この年の頃は、先駆的に「西洋洗濯屋」さんで、「ザラ板」と称する洗濯板が使われていた。洗濯石鹸の普及とあいまって、洗濯板もその後、一般に広がっていく。

五十嵐健治洗濯資料館蔵／太田公平



## 明るさが変わった

ガスマントルはオーストリアのウエルスバッハが明治19年に発明し、国産品は32年に理学博士の田中正平によって開発され、34年に商標公報に登録された。ガス器具および部品の登録としては、わが国最初のものである。明治35年以降発売された商品には、「不知火」「有明」「Apollo」「Hero」といったネーミングがほどこされていた。写真は明るさの比較で、左から蝋燭＝40ルクス、従来のガス灯＝60ルクス、ガスマントル灯＝280ルクス。



がす資料館提供



# 黒岩涙香(四〇)

## 主宰する「万朝報」も部数拡大 「噫無情」の連載で人気獲得!

◀明治39年に刊行された「噫無情」前篇の口絵。高山樗牛は、「この画素なる訳文を見よ」と激賞した。  
(伊藤秀雄提供(3点とも))



フランスの作家、ヴィクトル・ユーゴーの代表作「レ・ミゼラブル」が、「噫無情」の題名で「万朝報」紙上に連載されたのは、明治三五年、〇月九日から翌年八月までのことである。この頃、黒岩涙香(四〇)主宰の新聞「万朝報」は、発行部数二二万部を数えて、東京で最大

の発行部数を誇る新聞になった。当時の新聞と云えば、東京日日、報知時事新報、国民、日本などの「大新聞」に、万朝報、朝日、読売、都、中央などの「小新聞」(現在のタブロイド判)があり、大新聞がもつぱら政治的主張を述べるのに対して、小新聞は大衆向けの社

会的な事件を中心に、センセーショナルな紙面作りを行っていた。各紙が互いにしのぎを削る中で、「万朝報」が一気に部数を拡大したのは理由があった。希代のジャーナリストにして小説家でもある、黒岩涙香の存在である。涙香の卓越した時代認識と勸善懲惡に徹した報道、それにみずから翻案した、探偵小説を中心とする西洋の小説の連載が、多くの読者を獲得していったのである。

黒岩涙香は、文久二年(一八六二)九月二十九日、土佐国安芸郡北村(現・高知県安芸市)生まれ。本名は周六。生まれてすぐ、父の弟・直方の養子となる。明治十一年、大阪英語学校(三高の前身)に入学。翌十二年、姉をたよって上京し、慶応義塾に入学したがまもなく中退、政治や法律の本を乱読した。

明治十九年、「絵入自由新聞」に入社。めきめきと頭角を現し、翌年からは社説を執筆するようになった。探偵小説の翻案をするようになったのもこの頃からで、これが大評判となり、二二年には「都新聞」(現・東京新聞)の主筆となった。この時、二七歳。

涙香が「万朝報」を発刊したのは、明治三五年十一月のこと。紙名は、これを読んだ人がいろいろと重宝する意の「万重宝」をもじって名づけられた。大衆が興味を持つ三面を中心に、あらゆる方面の記事が配され、文字は総ルビつきで簡単明瞭。読みやすいうえに、値段も一部



▲涙香が創刊した「万朝報」、論説欄に内村鑑三、幸徳秋水らを迎え、英文欄も設けられていた。

・銭(他紙は「銭五厘」と最も安かった。「万朝報」を、躍有名にしたのが、発刊後まもなく起きた相馬家騒動である。旧大名・相馬家の御家騒動で四面楚歌の状態にあった旧臣の錦織某を、熱烈な筆致で弁護したのが読者に大いに喜ばれ、部数を拡大するのに大貢献。しかもこうした涙香の報道姿勢が、その執拗さから「まむしの周六」の異名を呼び、さらに「鉄仮面」「嚴霜王」などの翻案小説や英文記事の掲載など、涙香の紙面作りは他紙を圧倒し続けたのである。

黒岩涙香の研究家で評論家の伊藤秀雄氏は、涙香の功績を次のように述べる。「最大の功績は、大衆文学の基礎を築いたこと。昭和初期の大衆文学隆盛期に大きな影響を与えていて、江戸川乱歩や川英治は涙香から多くのものを学んでいます。そして、相撲の解説を新聞でやったりしたのも涙香が最初です。五日並べを「連珠」と命名したのも涙香です」涙香が肺癆のため、五七歳で生涯を終えたのは、大正九年、〇月六日。そして「万朝報」が「東京毎夕新聞」に併合され、その歴史を閉じるのは、涙香の死から二〇年後の昭和五年のことである。



▲涙香は探偵小説を翻案する際、まず目次人向けにプロットを組み替え、連載1回ごとに原作の該当箇所を読み返し、執筆時には原作を目にしなかったという方法をとった。





▼生存中から伝説の人物と化したバッファロー・ビル。彼が主演したショーは、スー族の酋長、シッティング・ブルや女優のアー・オー・クリーを加えて、人気を博す。

## 決定的瞬間

# わずかハ〇〇頭、絶滅寸前！ 名ハンターから野牛保護官に バッファロー・ビルの大変身

濃い髭の男が、ライフルを片手に立っている。西部劇の俳優のように見えるが、彼こそ伝説的な西部の男、バッファロー・ビル（五六リ本名、ウィリアム・フレデリック・コデー）である。斥候、バッファロー（アメリカ野牛、バイソンとも言う）狩りの名手、西部の案内人として生き、一九〇二年八月二三日にバッファローの保護官に任命された。バッファローは家畜化がむずかしく、広大な草原を必要とするため、保護のためには密猟を防ぐしかない。アメリカ政府は、彼のような著名な男を保護官にすることで密猟者を牽制し、野牛保護の姿勢を強調したかったのだらう。

バッファローは、牡だと体長三メートル、体重は八〇〇キログラムにもなる巨大な草食獣である。野牛の群れを初めて見た初期の開拓者は、「茶褐色の絨毯が移動しているように見えた」と語る。そうした光景は、一八〇〇年代初頭まで目撃されていた。しかし、西部開拓によって野牛は減少の一途をたどる。アメリカの動物物語作家・シートンは、未開拓時代のアメリ

カには六〇〇万頭以上の野牛がいたと推定している。ところが、一八〇〇年には四〇〇万頭、約一〇〇年後の一八九五年にはなんと約八〇〇頭にまで激減した（シートン動物誌「紀伊国屋書店」）。

一八三〇〜七〇年にかけて、野牛の毛皮の交易は西部の花形産業となり、組織的な狩りが行われた。また、東西から建設されていた鉄道が一八六九年にユタ州でつながり、西部のいたるところに町ができた。農場には柵が張りめぐらされ、発見された野牛は、鉄道労働者の食料として、観光のための狩猟獣として殺され、中には列車に激突する野牛もいて、その数は急激に減っていく。こうした危機の中、イエローストーン国立公園に逃げこみ、生き延びているものもいた。バッファロー・ビルが保護官になったのは、こうした野牛を保護するためだった。

ところで、ウィリアム・フレデリック・コデーが「バッファロー・ビル」というあだ名を持つようになったのは、南北戦争（一八六一〜六五年）後のことである。運送業者、斥候などを経て、カリフ

▼獲物を仕とめたばかりのバッファロー・ハンター。撮影は1904年、すでに野牛は絶滅の危機に瀕していた。



ORB'S BETTMANN PPS 2021

オルニアから東に伸びるセントラル・パシフィック鉄道建設のために働く一二〇〇人の労働者に、新鮮な野牛の肉を届けるという仕事をしていたからだ。この仕事がかつてで労働者たちは彼を「バッファロー・ビル」と呼ぶようになった。

鉄道が完成した後は、狩猟やインディアンとの踊りなどを見せる観光ガイドをしていた。この時、劇作家で興行師でもあったネッド・バントラインと出会い、一八八三年からは西部での体験を生かした「ワイルド・ウエスト・ショー」の主宰者として活躍する。彼のショーには本物の馬、ガンマン、インディアンが登場し、忘れ去られようとしていた西部開拓のドラマをリアルに体験させるものであった。このショーの成功で、彼はニューヨーク

はもとよりロンドンでも公演（一八八七年）するという世界的な名声を得る。

こうした著名人であるバッファロー・ビルが保護官に任命された一九〇二年の野牛の数は一九〇頭で、あいかわらず絶滅の危機に瀕していた。アメリカ政府はその後、四カ所に新たな保護区を設け、徐々に数をふやして、一九二〇年代には一万頭にまで回復。一九七〇年代に入ると、北アメリカ全体で三万頭を超え、ようやく絶滅の危機を脱したのである。





▲雲岡石窟第20洞窟仏前で 右端が伊東忠太(昭和5年の再訪時に撮影)。高僧・曇曜(どんよう)により460年から開削され、敦煌や龍門とともに三大石窟と称される。

## 美の出会い

# 法隆寺のルーツをさぐる旅で 建築家・伊東忠太の大成果！ 大同で北魏「雲岡石窟」を発見

中国の北京で紫禁城の調査を終えた東京帝国大学工学部造家学科(建築学科)の前身の助教・伊東忠太(三四)は、明治三十五年六月、山西省北部の大同で北魏時代の仏教遺跡「雲岡石窟」を「発見」した。これまでこの地では、古い仏教遺跡があることは知られていたが、ほとんど話題にものぼらなかったのである。

北京を出発して二週間後の六月、六日夕刻、忠太は大同に到着。その翌日、知県(知事)の龍氏に面会し、「この地に珍しい古建築はないか」と尋ねると、龍氏は「書物によれば、大同の西三十里の雲岡に北魏時代の遺跡があるそうですが、私は見てない。文献も誇張が多いから信じられない」と答えた。

忠太は翌一八日の朝四時に起き、府庁の役人と兵士に案内されて、馬でおよそ二〇キロ進んだ武州川の北岸崖壁にいたった。そこで、彼は約一キロにもわたる仏教石窟群をみだした。その時の興奮ぶりを、忠太は日記に記している。

「実ニ我が法隆寺式ト全ク同シキモノアリ、鳥(鰐作止利)作ノ仏ト符合スルモノアリ、壁画ト同型ノモノ、金堂建築ノ

手法ト符合スルモノ、実ニ意外ノ又意外、余ハ法隆寺ノ郷里ヲ知り得テ其嬉シキ事限ナク、昼飯ヲ食フノ時間モ惜マレテ午後五時ヲ過クルマデ一氣ニ調査シテ事ノ要領ヲ得タリ」

忠太は一〇時間ほど調査を続け、スケッチブックに一三六半ほどの記録を残しただけである。この大発見にもかかわらず、旅を急ぐ忠太は、さらなる調査の必要性を承知しながらも、出発しなければならなかった。龍氏に雲岡石仏はたしかに北魏のものであることを報告し、ひとまず北京に戻る。ここでは公使館などで講演して、雲岡石窟寺院を紹介した。この話を耳にしたハノイ駐在のフランス人東洋学者・シャヴァンヌは、さっそく現地調査を行い、その結果をパリで報告。雲岡の話はたちまち世界中に伝わった。忠太の功績は完全にかき消されてしまったのだ。後に忠太は、「こういう点では欧米人はなかなか抜け目がないね。日本人はいつも損をする」と語っている。

慶応三年(一八六七)に山形県米沢で生まれた伊東忠太は、明治三五年、帝国大学工科大学造家学科の卒業論文に「建

築哲学」を提出。続く明治二六年には、大学院卒業論文・学位請求論文として「法隆寺建築論」を発表し、師の辰野金吾から日本建築史の研究者として将来を嘱望されていた。

当時の建築界は「お雇い外国人」建築家・コンドルによって紹介された建築学が主流で、そこではヨーロッパ、さらにはイギリスの建築が最高のものとされていた。これに異を唱えたのが伊東忠太である。岡倉天心の影響を受けた忠太は、日本の建築から、さらに中国・インドなど東洋の建築の比較研究を進めるとともに、民族による建築の自立を訴えていた。卒業論文の中でも忠太は、法隆寺は世界最古の木造建築であり、法隆寺の柱はギリシャ建築のエンタシスの様式を

伝えたものであると主張していた。この明治三五年の旅も、実は法隆寺建築のルーツをさぐるためのもので、中国、ビルマ、インド、中東、エジプトまでを馬やロバで踏破し、ギリシャに向かう途中だった。以後、イギリスやアメリカをまわり、明治三八年に帰国するまでの三年間におよぶ大旅行になる。

世界旅行から帰国すると、忠太は東京帝国大学教授に就任し、建築家としても大活躍する。明治神宮をはじめ湯島聖堂、築地本願寺など多くの寺社を手がけたほか、大倉集古館、震災記念堂などの設計も行っている。これらの建物には不思議な形をした動物や化け物が数多く見られる。建築のディテールにも、中国やインドなど東洋の幻想的な動物の断片をちりばめたのである。

このように日本近代建築の初期に、途方もないエネルギーを放った建築家・伊東忠太ではあるが、その名を今日聞くことはきわめて稀である。西洋をめぐり、東洋を蔑視した当時の日本の風潮は、建築界にもおよんでいたのだらう。文化庁文化財保護部建造物課の稲葉信子氏は、次のように語る。

「近代建築史は、東京駅や日本銀行などを設計した辰野金吾の系列を追った西洋建築を中心に記述されてきました。そうした中で、明治二〇年から四〇年代の東洋思想の復興を背景とする建築は、忘れ去られてしまったのでしょうか。伊東忠太はアジア建築の核となる人物です。もっとと評価されていい人物だと思います」

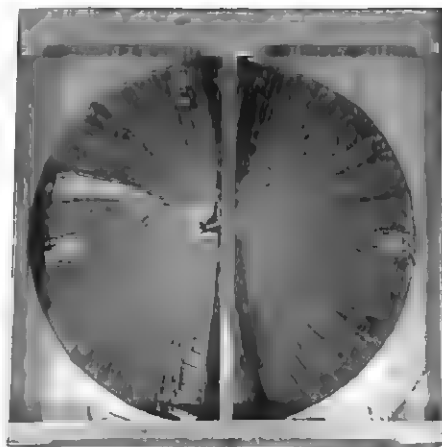
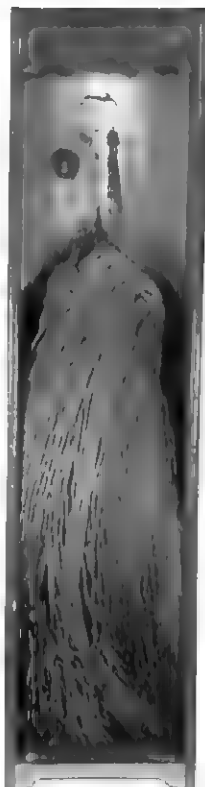


▲伊東忠太のファイルにノットした雲岡石窟の平面図。仏像、壁面の文様などが描かれている。









▲死の3ヵ月前から描き始めたとは思えない、明るいユーモアをたたえた画集「薬物帖」より。

石との親しい交わりはその後も続き、  
規は漱石を「畏友（いゆう）」「談心の友」と称し  
て敬愛の念を隠さなかった。

東大を中退した子規は、叔父・加藤拓川（ワタナベ）（ベルギー公使などを歴任）の親友、陸奥卿が経営する日本新聞社に入社する新聞「日本」ではまず「芭蕉雑談」を掲載し、蕉門俳人に対して「月並み社会の俗調」と厳しく論評、芭蕉偶像化を真っ向から批判した。いわゆる俳句革新運動の狼煙（ウツクシ）をあげたのである。

日清戦争に記者として従軍志願して、遼東半島まで出かけたのは二八年四月五日である。子規は戦場に足を踏み入れなかったものの、約一ヵ月、現地に滞在した。そして五月・七日、帰国途中の船

重病入とは思えない  
健啖ぶりを発揮する

このひとことで、律の鳴咽が、段と高  
まった

子規がひっそり息を引き取つたのは九月、九日午前一時頃だつた。その三、四時間前、ちよつと目をさまして「牛乳でも飲もうか」と言い、律が差し出したゴムの管からひとくち飲んで、落着いた声で「誰々が来ておいでるのぞな」と尋ねた。律が枕元にいた虚子、寒川鼠骨と増梧桐の姉の名を告げると、答えず眠りににつき、そのまま蘇らなかつた。

慶應三年（一八六七）九月七日、伊予国温泉郡藤原新町（現・松山市花園町）<sup>1</sup>

中で再び咯血し、かなりの重体で神戸病院へ緊急入院する。すぐに駆けつけてきたのは子規に師事していた虚子、碧梧桐らだった。

久方ふりに上根岸に戻った子規は、ひどい腰痛に悩まされ、歩行も不自由になった。リウマチとはかり思っていた痛みがカリエスと判明したのは、九年三月である。すぐに手術を受けたが、以後、床につく日がめつきりふえていった。まだ多少元氣だった一九一三年暮れに身長一六・三寸、体重五一・一ポンドだった肉体は、この頃、体重二七・五ポンドそこそこにまで衰弱していた。死の直前まで、日本新聞社から届けられていた月給四〇円と俳誌「ホトトギス」の原稿料一〇円がおもな収入だったが、経済状態は厳しく、子規は自室に喜捨袋きしやふくろをおいていた。

すっかり寝たきりの状態になってしまつた子規は、明治三四年九月、きょうがまんく「仰臥漫録」の執筆を始め、死の半月前まで書き継がれている。その内容は大半が日々の食事の記録で、たとえば三四年九月五日はこんな風に書かれている。

「朝、粥三椀、佃煮、瓜の漬物。昼  
めじのさしみ、粥四椀、焼茄子、梨  
二つ。間食、梨一つ、紅茶一杯、菓  
子パン数個。夕、鶏肉、卵一つ、粥  
三椀余、煮茄子、和加布わがふ、杯酢はっすかけ」  
とても、重病人とは思えない健康  
ぶりがうかがえる。

「とにかく、ひたすら食べていますね。それはこの食事で弱り切った体を駆りたてて、みずからを創作、批評活動に向かわせようとしていたのだと思います」

三番五号)に生まれた止岡子規は本名を常規、幼名を処之助と言ったが、後に升と改めた

明治十三年春、一歳で県立松山中学に進んだ子規は、六年五月、同中学を中退して上京。翌七年九月、大学予備門（一九年より第一高等中学）に入學。夏、漱石と同じクラスになって親交が始まる。二年五月九日夜、子規は突然、咯血に見舞われた。翌日、友人に勧められて医師の診察を受けると、肺（結核）と言われた。その夜、一時頃、また血を吐き、それから週間、毎晩、小さな湯呑み、杯ほどの咯血が続いた。この時、「卯の花の散るまで鳴くか子規」「卯の花をめがけてきたか時鳥」など数十句を作り、鳴いて血を吐く子規から子規と号することにした。

漱石とともに東京帝大文科大学へ進学した子規は、五年九月、退学する。漱石へ

と語るのは、文芸評論家で東洋大学講師の樋口眞氏である。氏は、子規の多方面にわたる活躍を高く評価したうえで、俳句では、やはり蕪村を賞揚したこと  
があげられます。それは、伝統詩としての俳句の大きな革新につながりました。短歌でも同様に、紀貫之を批判し、実朝を真正面に押し出してみせた。こちら  
も短歌の革新に寄りました。そのほか、数多くの才能をみだし育て上げた点など、子規は明治を代表する第一級の文化人といえます」と指摘している。

子規は「写生」の主張によって俳句、短歌を革新したが、文章においても「写生文」を提唱した。その文体観は虚子や漱石に継承され、日本近代文学の源流となるのである。

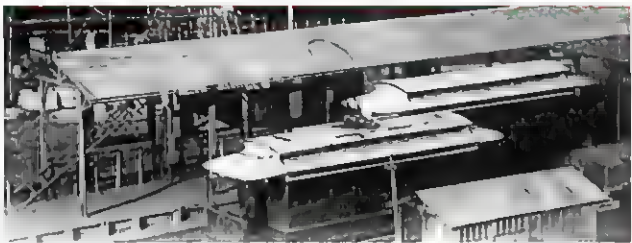




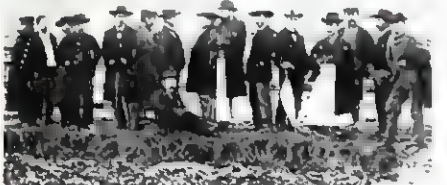




▲江ノ電が開業(9月1日)神奈川県藤沢市江ノ島間の片瀬まで完成、ドイツ製電車が走った。しかし、初日に満員電車が鶴沼付近で脱線、大混乱した。写真は藤沢駅。明治43年に鎌倉まで開通した。



▲浅井忠、京都高等工芸学校教授に(9月11日)帰国を機に東京美術学校を辞職、新設校に着任した。関西洋画界育成に尽力。写真は、陣道に座る浅井(46)と東京の門下生たち。



▲ゾラ、パリで急死(9月29日)暖炉の不完全燃焼による、一酸化炭素中毒だった。62歳。「実験小説論」や「居酒屋」などの作品は、自然主義文学の世界的潮流を生んだ。

▲若き永井荷風(9月10日)「地獄の花」を出版して認められた。写真は、東京・大久保の自宅。左から二人目が荷風(22)、両側が父母。翌年、渡米した。



▲三井本館が竣工(10月)東京・日本橋に、地上4階・地下1階の三井の総本山が誕生。耐震構造を研究した横河民輔が設計。鉄骨に煉瓦壁を積み上げる、鉄骨構造建築の先駆となった。

▲南方熊楠、菌類採集に没頭(10月9日)大英博物館勤務を終え、前年から故郷の和歌山県田辺町を拠点に山野に分け入り、キノコの分類と彩画を製作。写真は、採集に向かう熊楠(右)。



▲竹本越路太夫、摂津大塚を拝命(9月10日)浄瑠璃界で美声と優美な芸風で人気を博し、故・小松宮の遺命が下った。66歳。翌年、襲名披露興行を行った。

▲絶頂の川上一座(9月)米国に渡り好評を博して、凱旋帰国。翌年「オセロ」などの翻訳劇に挑戦し人気沸騰。写真中央が貞奴(21)、右が音二郎(38)。



▲石川啄木、上京(10月31日)カンニング事件で盛岡中学を退学、新天地を求め上京した。写真は英語学習仲間との上京記念。前列左端が16歳の啄木。

▲仏警察、指紋採用(10月16日)パリ警視庁が完成。前年、ロンドンで採用されたヘンリー式に比べ、識別の迅速さと確実性を誇った。日本の採用は明治41年。



▲早稲田大学が開校式(10月19日)明治15年に設立の東京専門学校が改称、私立で初めて大学となった。開校式で創立者の大隈重信(写真右)は、学問の独立などを含む「建学精神」を説いた。



- 明治35年 10月
- 1 水 ●宮崎滔天、新体浪花節「桃中軒を組」
  - 2 木 ●「開議」 韓国での事業経営費四七九万円支出を決定。京釜線敷設・日清銀行設立など
  - 3 金 ●日銀、不況対策のためこの年一回目の公定歩合引き下げを実施。二銭から一銭八厘
  - 4 土 ●軍服改良はかる陸軍、夏期用の白官衣全廃
  - 5 日 ●パリで作家エミール・ゾラ(六二歳)の葬儀
  - 6 月 ●横浜でベスト発生し二人死亡(27日)発生地域の家屋七〇戸買い上げ焼却。作業員を隔離
  - 7 火 ●大阪毎日新聞に新聞初のコラム「現潮」(現在の「余録」)始まる
  - 8 水 ●松音は雨量多く各産地とも大収穫、と新聞に
  - 9 木 ●陸軍懲治隊条例公布。懲罰を受ける改修情のない兵士を収容(11月1日、姫路に設置)
  - 10 金 ●横濱の民間天文家・井上四郎が、明治一五年以来最大の彗星(四等星大)を発見
  - 11 土 ●米田、居住許可証不所持の清国人を多数投獄
  - 12 日 ●警視庁、警備警察隊にベスト予防策を訓示
  - 13 月 ●大阪内閣勸業博覧会出展の象や虎などが神戸到着
  - 14 火 ●新潟、一連隊、演習中に渡船転覆、五人溺死
  - 15 水 ●警視庁、自転車取締規則を改正。夜間のライト点灯・下駄履き運転禁止など
  - 16 木 ●仏警察、科学捜査に初めて指紋を採用
  - 17 金 ●京釜電気鉄道が開業。蒲田・羽田間
  - 18 土 ●米六船「コリア号」が横浜・サンフランシスコ間を新記録の二日一五時間一五分で航行
  - 19 日 ●独の産業博覧会、約五〇〇万人が入場
  - 20 月 ●仏議会、政教分離問題を検討する委員会設置
  - 21 火 ●奥羽北線、青森・秋田間が開通
  - 22 水 ●青森県下、米不作で農家は半飢饉、と新聞に
  - 23 木 ●天皇、東京・上野で開催の漆工競技会を覧
  - 24 金 ●横須賀の特別中隊艦艇に七下人殺害しお刺
  - 25 土 ●十和田湖に鯉の稚魚七千匹を放流
  - 26 日 ●掛川紡績と平野紡績が合併(三チホの重厚)
  - 27 月 ●「明治」創刊、巡行艦「建武」
  - 28 火 ●東京府、ネズミ、鼠で買い上げと新聞に
  - 29 水 ●日銀、銀貨の金イ不足補填のため政府一〇〇万円を貸し付け。翌年6月、返済
  - 30 木 ●改正、上野の魚河岸で、斬り
  - 31 金 ●政府、日露仲介委員に本野一郎を兼任

- 明治35年 9月
- 1 月 ●江ノ島電気鉄道、藤沢・片瀬間が開業
  - 2 火 ●東京府、上野で開催の漆工競技会を覧
  - 3 水 ●八幡製鉄所史員の石炭炭流し発見。二人殺害
  - 4 木 ●豪有有色人労働者を排斥、と新聞に
  - 5 金 ●英、清国と通商航海条約調印(マッケイ条約)
  - 6 土 ●山口県下にコレラ続発、小郡町で二人死亡
  - 7 日 ●韓国元帥府、并髪禁止令を發布
  - 8 月 ●千葉の日刊紙「新開港」、記事内容が官吏を侮辱したとして記者に禁固一月・罰金五円
  - 9 火 ●能楽会付属能楽堂を東京・靖国神社に奉納
  - 10 水 ●台湾製糖、一井物産と製品一手販売契約締結
  - 11 木 ●建設鉄道、初めて女子社員として八人試験採用、職種は客車製茶室のウエイテス
  - 12 金 ●憲政本党、増税継続反対の檄文を全国に配布
  - 13 土 ●川崎造船、龍王第一船として、清国・上海開港の灯台巡視船「流星」を竣工
  - 14 日 ●千葉銀行に水難救済会の救済所開設
  - 15 月 ●第一生命保険相互設立(初の相互保険会社)
  - 16 火 ●文部省、高等女学校での修身・しつけ教育の徹底と生活取締り強化を全国高女に内訓
  - 17 水 ●横浜電気鉄道、設立(後に市電に移管)
  - 18 木 ●東京で釣り堀屋まをおう賭博場増加と新聞に
  - 19 金 ●正岡子規、死去。三四歳
  - 20 土 ●大阪商船、大阪・元山線を開通
  - 21 日 ●鉄道技術者一〇人、技術援助のため渡清
  - 22 月 ●露帝、ニコライ二世、フィンランドに露人総督を任命。フィンランドの自治権削減
  - 23 火 ●練習艦「筑波」乗組七〇人、入江(軍法会議)を返還(30日、英も返還)
  - 24 水 ●内務省、幸徳秋水らの社会主義演説会を禁止
  - 25 木 ●鉄道局と私鉄の関西鉄道が、大阪・名古屋間の速度・運賃値下げ競争自派の覚悟を表明
  - 26 金 ●露、接收していた清国の開外鉄道・山海関から長城まで)を返還(30日、英も返還)
  - 27 土 ●日露協会が発足(会長・榎本武揚)
  - 28 日 ●関東から東北地方に暴風雨、足尾銅山では山崩れで八人死亡、八〇人け行方不明
  - 29 月 ●長雨を告に東京、浅草の女性露店商が自殺
  - 30 火 ●米国の炭鉱スト長期化し、ニューヨークでは燃料節約のために学校閉鎖





毎日新聞社



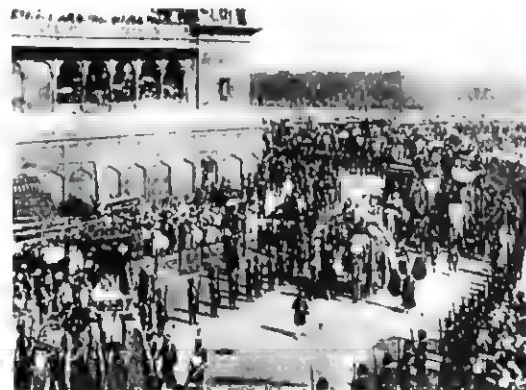
▲「ピーターラビットのおはなし」出版(12月) 東・北部の湖水地方を愛したボター(写真)が、知人の子供に送った絵入り手紙を編集。創作絵本の出発点に。

CORBIS-BETTMAN PPS

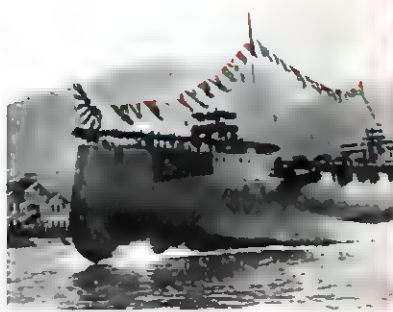
▼アスワン・ダム完成(12月10日) 英国の協力により、エジプトの悲願成就。ナイル川を活用した、周辺農地への通年灌漑が可能になった。写真は完工式。



▲「世界第一最大最長」の映画(12月) トリック駆使の洋画が受け、映写時間15分の長尺物も登場。写真は長尺を誇る「ロビンソン・クルーソー」を上映の大阪・角座。



▲カーゾン提督、デリー入城(12月29日) エドワード7世の新インド皇帝就任を祝い、得意満面の行進。民族抑圧、ベンガル分割を促進して、民族運動に火をつけた。



▲巡洋艦「対馬」進水(12月15日) 呉工廠で建造、排水量約3300トン。日露戦争、第1次大戦で活躍。この年、「三笠」はじめ、駆逐艦など外国発注艦艇はすべて完成、回航された。



▲教科書疑獄が発覚(12月17日) 教科書会社と県知事や担当官ら157人が、教科書採用の贈収賄で検挙。教科書固定化の契機となった。写真は、摘発された最大手の出版社・金港堂。



▼三池港が着工(11月) 三井鉱山が石炭増産を見こみ、海上輸送ルート開拓のため、大牟田に建築。写真は、三井財閥顧問・井上馨を迎えた起工式。6年後の明治41年に完成した。

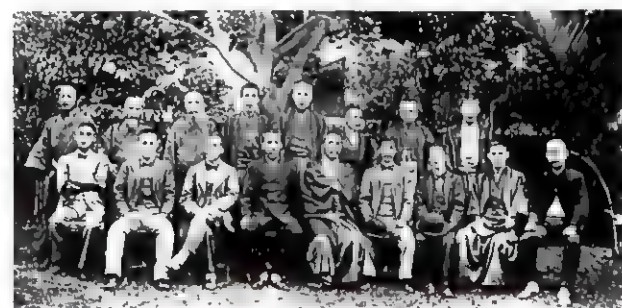


▶沖縄、悲願の「本土並み」地方自治(11月) 政府の旧慣存続策のため大幅に遅滞。29年頃から、ようやく沖縄の行政機構が整い始めた。那覇でも、伝染病予防委(写真)が任命された。



尾山光雄提供

▲山陽ホテル開業(11月1日) 山陽鉄道会社が、山陽本線開通にともない、下関駅構内に建築。洋風木造2階建てで、鉄道ホテルの先駆けとなった。明治39年、国鉄直営となった。



(大塚)

▲釜山港改修工事(11月) 明治9年の開港以来、日韓貿易の拠点だったが、前年に漢城(現・ソウル)と結ぶ京釜鉄道の起工され、大陸への中継点として改築が急がれた。

新聞市歴史資料室提供

- 明治35年 12月
- 1(月) ●平野五郎、初の紙幣発行を完了。
  - 2(火) ●国勢調査法公布。大正9年、第一回調査。
  - 3(水) ●伊藤・大隈会談。地相増税継続反対と、政友進歩提携に合意(4日、両党総会で決議)。
  - 4(木) ●内務省、利根・信濃・淀・古野・高梁川の五大河川改修一〇カ年計画を策定。
  - 5(金) ●全国絹織物連合大会、輸出不振打開策を協議。
  - 6(土) ●東京市内で個人宅の郵便受けの郵便物盗難が頻発、注意が肝要、と新聞に。
  - 7(日) ●帝國教育会、学制頒布一〇年記念式を挙げる。
  - 8(月) ●赤痢患者隠蔽で栃木県佐野の医師に罰金判決。
  - 9(火) ●大阪に人力車営業組合連合会が結成される。
  - 10(水) ●エジプト・ナイル川にアスワン・ダム完成。
  - 11(木) ●政府、地相を永久に海軍費とする地相増税継続案を議院提出(28日議院解散で審議未了)。
  - 12(金) ●商業会議所連合会、工場法に反対決議。
  - 13(土) ●文部省、哲学館・中島徳彦の偏見を反国体とし同館の教員許可を取り消し(私立館理事事件)。
  - 14(日) ●米國、サンフランシスコ・ホルム間の海底電線の敷設工事を開始(翌年1月完成)。
  - 15(月) ●呉海軍工廠で巡洋艦「対馬」進水式。
  - 16(火) ●九書、大英百科全書、五巻の月曜版が予約を完了(翌年2月、予定の五〇部を完了)。
  - 17(水) ●小学校教科書採用をめぐる贈収賄事件発覚。
  - 18(木) ●英、初等教育が地方自治体の管轄となる。
  - 19(金) ●訪日中のシャム(現・タイ)・聖太子、参内。
  - 20(土) ●英・独・伊・國、ベネズエラの外債償還延期のため海上封鎖を開始。
  - 21(日) ●中央西線、多治見・中津川間開通。
  - 22(月) ●埼玉、一戦一初めの幼年監獄、少年刑を執行。韓国から第一回ハワイ移民一人が出發。
  - 23(火) ●英・カナダ間に大西洋無線電信が開通。
  - 24(水) ●東京、本所に東京初のベスト発行者、入道。
  - 25(木) ●ローマ教皇・レオニ世、クリスマス・ミサに過激主義を否定しキリスト教民主主義を訓備。
  - 26(金) ●二井物産、同社初の対清国投資として上海・上海紡織有限公司を設立。
  - 27(土) ●初めて学生による定住運動、近江地方で発生。その大規模な集会。
  - 28(日) ●桂昌閣、地租増税案の採決直前に衆院を解散。
  - 29(月) ●津波被害の小田原は新年松飾り所と新聞に。
  - 30(火) ●ナチス・ドイツがポーランドに侵襲。
  - 31(水) ●教科書疑獄事件で栃木県知事、高城早知事、を検挙(翌年3月まで一・五千人検挙)。

- 明治35年 11月
- 1(土) ●東京、初等教育の統一。
  - 2(日) ●官営鉄道、京都の紅葉見物客のための新橋・京都間に初めて回遊列車運転。食堂車つき。
  - 3(月) ●英・ベルギー間に連絡電話架設。
  - 4(火) ●文部省「新小説」に掲載の島村「江戸」が、風俗を乱すとして発売中止になる。
  - 5(水) ●農商務省、工場法案を参議院に回付。夜間労働禁止法などにも賛否は反響。
  - 6(木) ●英議会、宗教学校への政府監督権を増大する教育修正案を可決。
  - 7(金) ●万国郵便条約、小包郵便物取扱条約(印刷)を公布(12月1日、外国郵便小包を可決)。
  - 8(土) ●兵庫県、種村で二〇人拘留。官林盗伐容疑。
  - 9(日) ●タバコが不作で三割減、値上げ必至と新聞に。
  - 10(月) ●全国自動車大競走会、東京・上野公園で開催。
  - 11(火) ●熊本での陸軍特別大演習を天皇統監。
  - 12(水) ●川上言・郎が神奈川・茅ヶ崎に伊藤学校建設用地一五〇坪を購入、と新聞に。
  - 13(木) ●農工銀行大会開催、貯蓄銀行法改正など決議。
  - 14(金) ●東京、大生・藤井実、帝大運動会、〇〇競走で世界新の、〇秒一四を記録。
  - 15(土) ●機務省で巡洋艦「新高」進水式。皇后臨席。
  - 16(日) ●札幌で北海道有志大会。大学設置など決議。
  - 17(月) ●矢野龍溪、社会問題講究会を結成。
  - 18(火) ●米國の玩具会社が低のぬいぐるみ「ブディ・ベア」を発売。大人気商品となる。
  - 19(水) ●大阪、鴻池新田の農民三〇〇人、天候不良で不作として小作料の引き下げを要求暴動化。
  - 20(木) ●大蔵省、「北清事変」による個人賠償金の支払を開始。総額一四四万円。
  - 21(金) ●磯ノ井線、塩尻・井岡間全通。信越線に連絡。
  - 22(土) ●京都、舞鶴新道が開通。府知事らが祝辞。
  - 23(日) ●台湾總督府、銀貨低落に対処し銅貨輸入禁止。
  - 24(月) ●北清事変に出る上海駐米、白八千人。長崎へ帰郷(11月まで一〇万人が帰郷完了)。
  - 25(火) ●政友会総裁、伊藤博文、首相に影響力持つ京都の山県有朋を助ける増税問題で会談。物別れ。
  - 26(水) ●米穀凶作の東北は清酒製造手控えと新聞に。
  - 27(木) ●神戸製紙所、わら紙料製造設備を完工。
  - 28(金) ●女学生の喧嘩は最近の社会問題、と新聞に。
  - 29(土) ●京都、興正寺で火災、本堂など焼失。
  - 30(日) ●警視庁、掃蕩設備の不備な寄席建物に改築命令(12月30日まで未落成の場合、営業停止)。



**流行語**

# 学生が訴えた足尾の窮状

を見ており、すでにボウリング倶楽部も設立されてさかんに競技会を行っている

元來、同市の同胞の間では日の出倶楽部という社交機関が組織されているが、いまだ、棟の家屋を借り入れる勇氣もなく、月一回の集會も、日本人旅館の広間を借りている。このため日曜日や、夜仕

ハウリングが大流行

【シアトル発】最近、当市在留の日本人のうち、各商店に通勤する人々の間に、ボウリングが大流行を見せており、すでにボウリング倶楽部も設立されてさかんに競技会を行っている。

などに大好評である。  
 「大阪朝日新聞」  
 月一四日

食

岩手の酒造会社で発見  
 明治時代の酒の自販機

岩手県二戸市の久慈酒造会社で、  
 明治時代のお酒の自販機が見つかる

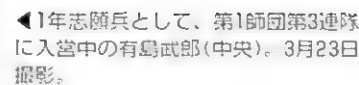
「庄田善助画『名刺の運動』」 選挙運動では名刺が、何  
 ぱらまかれるが、名上てなくては名刺の運動と、譬した。  
 ある「(団圓珍聞)六月七日号」掲載

つた この自販機は高さ約一  
 尺、幅四二センチ、奥行き五五センチで、  
 外枠の材質は杉である 前部中央  
 に「五銭白銅入り口」「ゆすぎ水  
 出口」「酒出口」がそれぞれ設け  
 られており、内側はゼンマイ仕掛  
 けで、貯蔵された酒や水を供給す  
 る仕組みである

〔河北新報〕昭和十

東京は世界八位  
主要都市の人口

ロンドンの人口が六六〇万人に達した。そのほかのおもな都市の人口は次のとおり。②ニューヨーク③三四四万人、③パリ④二七〇万人、④ベルリン⑤一九〇万人、⑤シカゴ、ウイーン⑥一七〇万人、⑥武漢⑦一五〇万人、⑧東京⑨四四四万人、⑨ペテルブルグ、フィラデルフィア⑩一三〇万人（「J・トレイガー」『トビックス&エピソード 世界史大年表』）



## CM100年

▶わが国初の、外国人デザイナーによるポスター。日英同盟締結を祝して作成されたもの

「ネッスル・スウヰス・ミルク 最モ滋養分ニ富ム」(ネスレ日本)

ネスレ スウイスミルク  
最も滋養分豊富



小供  
サア、アナタ  
ニ津山御所へ  
ヲ持テ来マシタ  
其申テモ一巻  
イノハ祢ノ旨  
イウルすみく  
テス  
ナゼナラ滋養  
ノ多イハ之ニ  
優レモノハナ  
其國ナレバ  
モ皆之ヲ飲ミ  
ス  
ツマリ身体強  
壯ニ達者ニスル  
効能ガアルデ  
ス

## 三面記事 出獄人引き取り稼業

三  
面  
記  
事

東京・浅草公園界隈から吉原までの間には、出獄人の引き取りを稼業とするものが四四人いる。どのような仕事をしているかと言え  
ば、空き巣、かつ払いの常習犯で、引き取り人のない無宿人は、出獄

に際し、いろいろと警察の制約を受けることが多いため、それを避けるために、金を払って引き取り屋に身柄を引き受けてもらうのである。その相場は大人三〇銭、小僧二五銭なり。三犯、五犯の常習ともなれば、この稼業のものとも顔見知りになるから、出獄者に金がなくとも引き取りを承諾する。出獄したものは三、四日滞在し、その間に空き巣やかつ払いなどで稼いで、礼金をおいて、いずこでもなく去っていくのである。

ただし初犯のものはその場で払わなければ、身柄を引き取つてくれない。これは初犯には、すぐ

流行

「御用」の文字が氾濫  
告諭を発した警視庁

最近、「御用」という文字が商売を問わず、いろんなところで乱用され、中には魚屋、八百屋まで法被の背中に「御用」の文字を染め抜いているものさえ見受けられる。これが見苦しいというので、

科学

マンモスの死体発見  
ただ今ソリで運送中

昨年九月、シベリア・エプロン  
フカ付近で、ヘルツ博士によつて  
発見されたマンモスを、英国「デ  
ーリー・メール」紙の通信員が実  
見し、このほど露都へ帰還した。  
それによるとマンモスは二〇〇  
の断崖から落したもので、舌だ  
けで九寸、尾は四寸以上あつ  
た。背中と鼻の一部をのぞけば全  
身完備し、赤茶色の粗毛におお  
われていたという。

この年の初もの

五五歳定年制を  
日本郵船が導入

●電柱広告 五月、警視庁が許可場所は人道と車道の区分のある街路に限定され、麹町通りや飯田町に登場

●卓球 六月にイギリス留学から帰国した、坪井玄道（東京高等師範）

●ガス暖房 新築された大隈重信邸に設置

●恐竜の化石 アメリカ・モンタナ州で、ハーナム・ソラウシにより恐竜のティラノサウルスの化石が発見される

はやり歌



しらす深く降り積もる  
八甲田山の麓原  
吹くや喇叭の声までも  
凍るばかりの朝風を  
物ともせずには々しくも  
進み出でたる一大隊

白曲 坂本武司



▶八甲田山で起きた死の雪中行軍を題材にした歌。添田睦雄坊(あせなぼう)うしろの作品もあったが、軍隊内ではこの歌が愛唱された。写真は、作詞の落台直文。

田茂木野村を後にして  
踏み分け登る八重の坂  
雪はますます深うして  
燈も動かぬ夕まぐれ  
せんなく其所に露営せり  
人はつちらの枕して  
朝くるを待ちてまた更に  
前へ前へと進みしが  
み空のけしき物すこく  
忽ち日影かき暗し  
行くも帰るも白雪の  
果ては道さえ失いぬ  
嗚呼玉杯に花うけて  
あゝあゝ  
嗚呼玉杯に花うけて  
緑酒に月の影やとし  
治安の夢に耽りたる  
榮華の巷低く見て

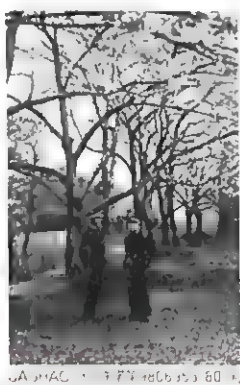
第一高等学校（現・東京大学教養学部）  
 の第二回記念祭で作った哀歌。写真  
 は、高運動場の桜並木の下にたたずむ  
 一高生。

芳容の雪の精をとり  
 芳野の花の華を奪い  
 清き心の益良良誰が  
 剣と筆とをとり持ちて  
 たび起たば何事か  
 人世の餘業成らざらん

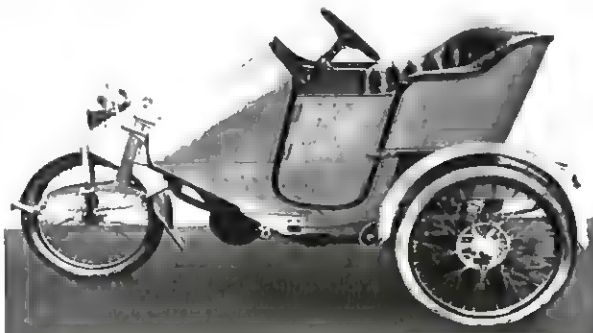
向方岡にそそり立つ  
 五森の健児意気高し



五森の健児意気高し



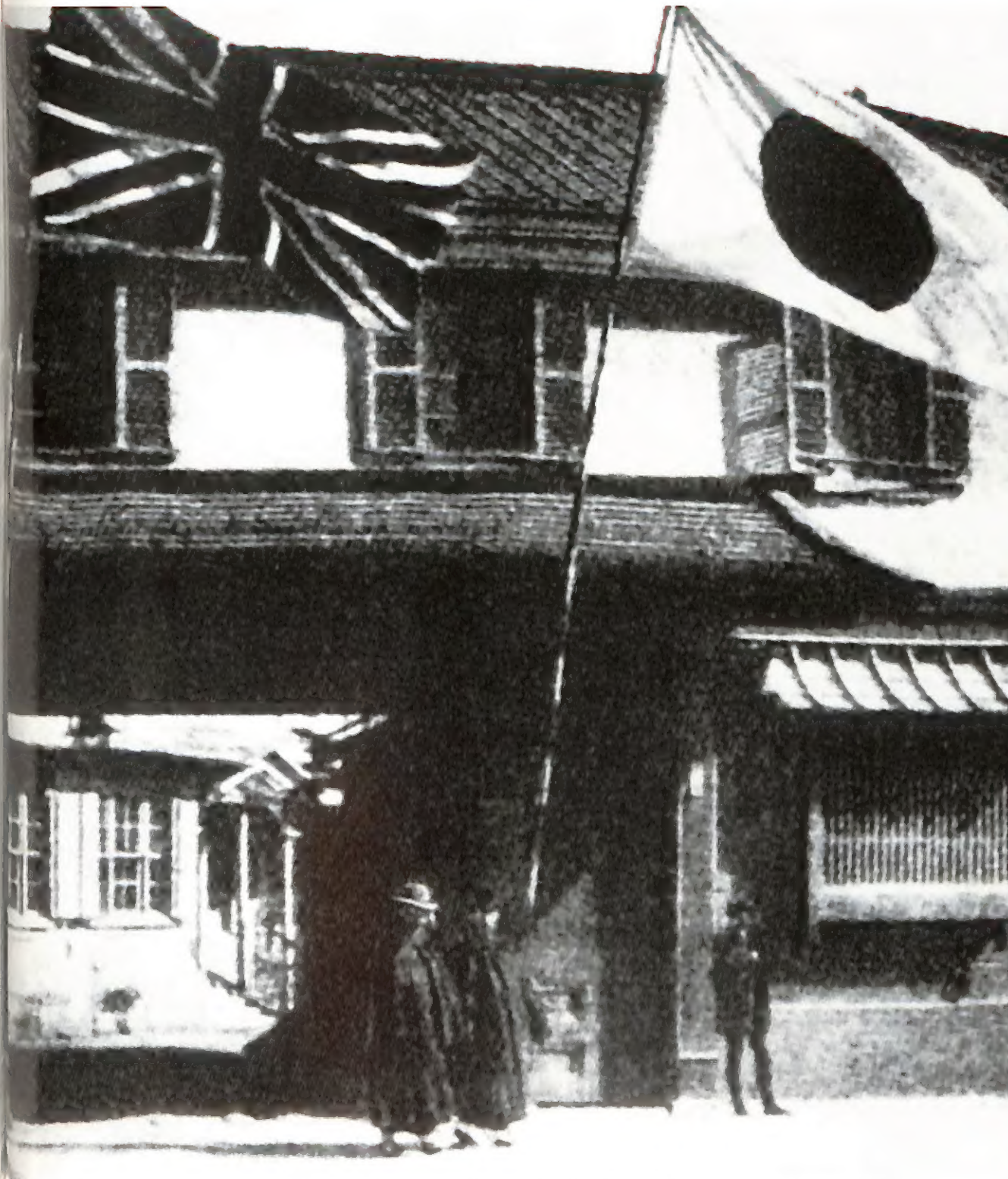
▲市内の小学校の優等生が集められ、褒賞が授与された。  
直後、全員で記念撮影



▲この年横浜の業者が輸入した、ガソリンエンジンの二輪乗用車「オードライク」



# 「三千年紀になる勿々、夜が明けたような気がした」 ロシアの中国、朝鮮への進出を背景に 国運を賭けて「日英同盟」締結！



▲日露開戦直後の明治37年2月、英国に発注していた「日進」「春日」の両軍艦が横須賀に到着。写真は、英国人乗組員の宿舎。

明治三十五年一月、極東の新興国にすぎなかった日本は、英国との間にロシアの極東戦略に対する共同防衛条約「日英同盟」を結んだ。反対派の筆頭だった伊藤博文前首相は締結後、「一国と一国との間に結ばれたる約束は、国をあげての約束なるが故に、これを變更すべきものにあらず」と語ったが、その言葉どおり、この同盟は日露開戦、第一次世界大戦への参戦など、以後二二年間にわたり、日本の外交政策に影響力を持ち続ける。

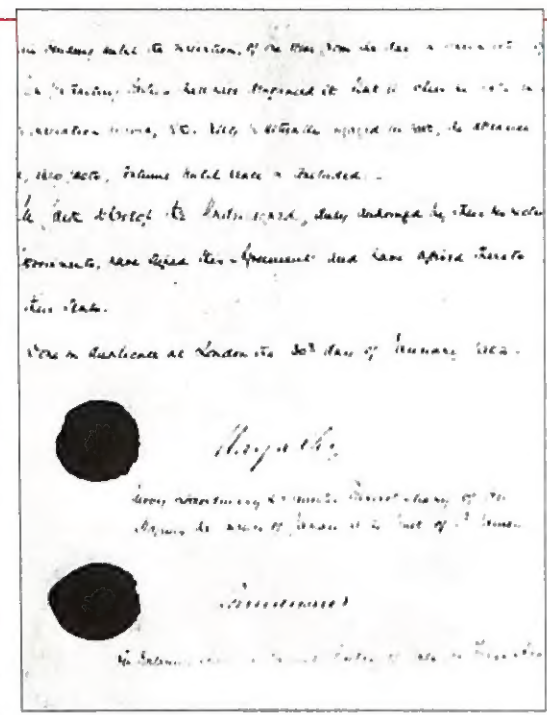
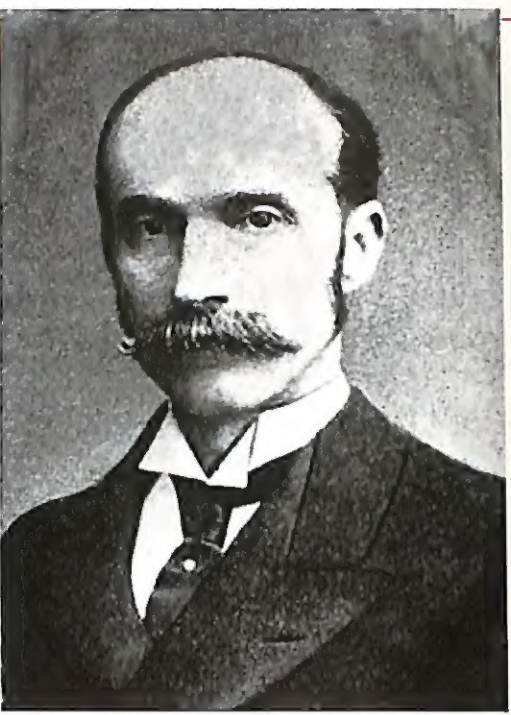
## 日英相互の思惑を利用し ドイツがきっかけを作る

「諸君、本日、この議場において国際上重要な事件を報告するを得るは最も光榮とするところなり」  
桂太郎首相（五四）が枢密院において、協約文六カ条からなる「日英同盟」の締結を発表したのは、明治三十五年（一九〇二）二月一日午前九時すぎ。顔を紅潮させた首相は、林董駐英公使（五一）とランズダウン英国外相が一月三〇日に調印した、この同盟の中身を朗読した。  
「第一条で、日・英は清・韓国が他国に侵害された時は必要な措置を取るとし、第二、第三条ではその侵害してきた国と

在だった日本が、英国に注目されたのだ。ロシアの遼東半島と韓国進出にあせりを抱く英国の目には、日本が「極東の番兵」になりうる国に映った。

一方の日本は、ロシアの野心的な中国進出に歯止めをかけるため、列強各国と足並みをそろえる必要に迫られていた。これに、ロシアの軍事圧力を欧州から極東に転じたいドイツが、日英の思惑を利用して黒子として立ち回り、「日英同盟」成立のきっかけを作ったのだ。林董

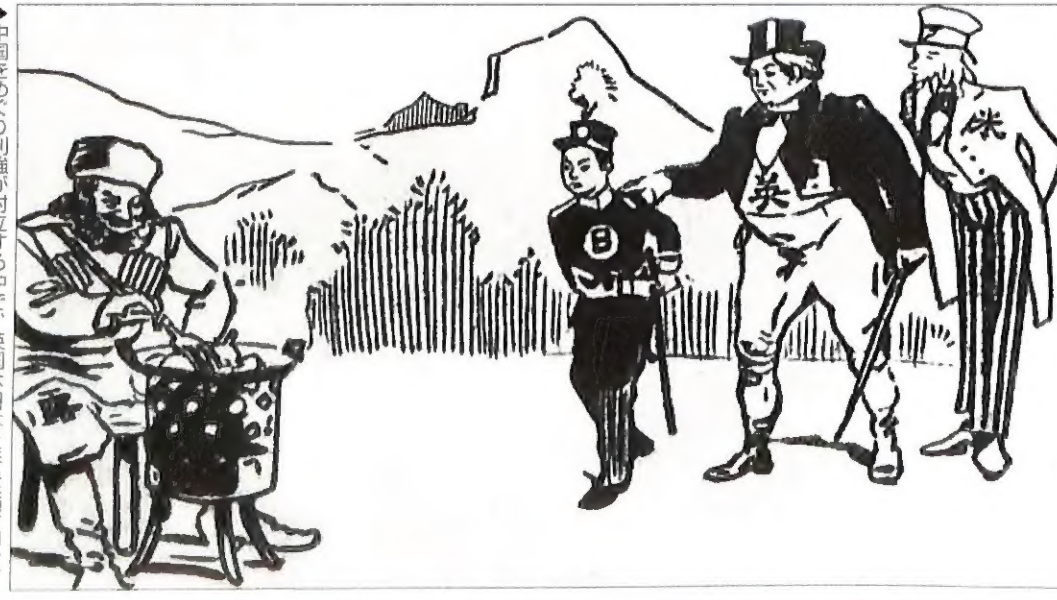
りに、韓国における日本の優先権をロシアに承認させるという利害調整論（満韓交換論）。一方、桂首相などの「日英同盟」派は、日露の利害対立は不可避とし、日英同盟を背景にロシアを満州から駆逐するという対立必至論だった。  
こうした確執を尻目に、明治三十四年、○月一六日、「日英同盟」派の林駐英公使が、英国政府と正式に交渉を開始した最中、伊藤は独断でロシアに渡る。私人として、「日露協商」の可能性をロシ



▶日英同盟協約正文と面会代表、協約は明治三十五年一月調印、イギリス外相ランズダウン（右）と駐英公使林董（左）が署名した。

日英のいずれかが交戦する時は中立を守り、二国以上と戦う場合は共同で作戦・講和にあたる。第四、六条では、他国と勝手に協定を結ばないことを約し、協定の期限を五年とする」要旨  
演説が終わると、議場の政治家から耳をつんざくような喝采を受けたという。  
欧州のいかなる列強とも同盟を結ばない「栄光ある孤立」を貫いてきた英国と、極東の新興国・日本が同盟を結んだことにマスコミは熱狂し、新聞は「東洋の平和の保証は此に至りて始めて成る」といった調子で書き立てた。  
「提灯に釣鐘、お月様とすっぽんの縁組みができたようなもので、すっぽんにとってはうれしきことに違ひなかった。誰もみな涙をこぼすほどよくなった。昨日の仇敵は今日の友、日の丸の旗とユニオンジャックのフラッグとをぶつ交いに、どこの家でも門口に立てて祝った。何だか二十世紀になる勿々、夜が明けたような気がした」（明治大正見聞史）  
評論家の生方敏郎は、庶民の素直な喜びようをこのように書き残している。  
もとはといえば、「日英同盟」の発端は明治三三年の「義和団事件」（北清事変）だった。英仏露など八カ国が中国に派兵し、「帝國主義の観兵式」と揶揄された排外運動鎮圧作戦に日本も参加。この時、「帝國主義の研修生」的存

親露派か親英派か  
権力者同士の確執  
日英独の虚々実々の駆け引きの産物だった「日英同盟」は、締結直前まで、国内でも権力者同士の確執を招いていた。対露接近か対英接近か――。二つの選択肢のうち、前者の「日露協商」を主張したのは元老の伊藤博文前首相（六〇）と井上馨（六六）らで、後者の「日英同盟」を支持したのは、元老の山県有朋（六三）、桂首相らだった。  
両者の言い分を要約すると――伊藤を筆頭とする「日露協商」派は、ロシアの満州（中国東北部）進出を認める代わ



▶中国をめぐる列強が対立する中で、英国は日本と手を結びロシアにあたらせて、漁夫の利を得ようとしている、という風刺画。



# ラファディオハーンが愛した 旧い日本と近代化の波

佐伯修

「僕に男の子が三人あることは君は知って居ると思う。みんな丈夫な子だ——長男は今までのところ、おとなし過ぎるが。僕は講義時間を除いて全然旧日本の中に暮らして居る。そしてあの『もののあわれ』さえ無ければ、幸福だと思っても宜い。固まりのこと僕は幾分か老人になった（中略）。それからまた僕は不愉快な物事を言うに言われぬほど沢山知らねばならなかった。だが、此処の人達がいうように、シカタガナイ——已むを得ぬ——のだ」（大谷正信訳）

明治二三年に米



▲ハーンと教える子・大谷正信。

ギリシャ女性と、そこに駐留するアイランド系英軍人の間に、レファディオス・ヘルンとして生まれたハーンは、少年時代に父母と離別、英国でカトリックの教育を受けたが、事故で左眼を失明、米国に渡りジャーナリストとなった。黒人系の女性との最初の結婚は、当時の米国社会の圧力により破綻。松江で出会った二度目の妻・セツ（節子）があげるハーンの「好きな物」

「西、夕焼、夏、海、遊泳、芭蕉、杉、淋しい墓地、虫、怪談、浦島、蓬萊」など、「嫌いな物」

「うそつき、弱いものいじめ、フロックコートやワイシャツ」（小泉セツ「思い出の記」）などは、彼の人間像を端的にものたる。

さて、冒頭の続きでハーンは述べている。『日本は、君の想像し

得るように、急速に変化しつつある。そしてその変化は美しいものではない。僕は古い空気の——日本の絵に跨って居るのを君が見たことのある彼の朝の色の霞の帯のように、此処彼処にたゆたうて居る古い空気の——破片の裡に居るようにと力めて居る。高まり行く疑念のその花冠の裡に、総てはまだ仙境である。そして僕の家庭はいつも幾千年前の空気を有って居るであろう。だが、外の生の光りで見ると、日本の変化は醜いもの、傷ましいものである』

ア首脳と話し合うためのペテルブルグ訪問だった。伊藤は、みずから対露交渉を仕掛けていた裏で、桂首相の指示のもと、日英交渉が進行しているとは知らなかった。そこで彼がロシア入りする前に、「巴里へ送って来た所、我輩（林公使）から其辺（日英同盟の草案）の報告を耳にしたものだから、余程当惑して、一時は進退に窮すると云う様子に見えた」（日英同盟の真相）という。

交渉の妨害工作も水面下で展開されていたよう、伊藤の外遊に幕僚長として随行した都筑馨六（後に枢密顧問官）などは、日英同盟派に行った交渉妨害について、「行為は卑劣詭詐、唯是自己の功を見はさんことを目的とする者にて賤むべき者なり」と、林の著書の中で名指しで批判されている。しかし、主張は異なるものの、日本の国益上プラスになるかどうかを見定めようとする点においては、伊藤も桂も冷静で慎重なリアリストだった。



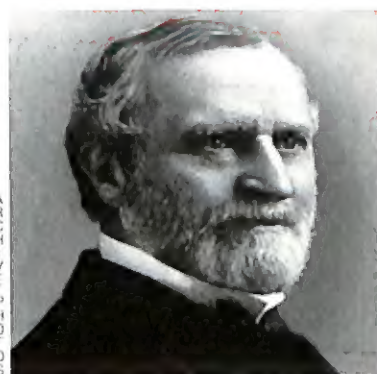
▲明治二八年八月、第二回日英同盟協約が調印され、一〇月には英艦隊が来日。日比谷公園で交歓会が開かれた。

そして、結果的に日本の二股外交が、英国のイライラを募らせ、「日英同盟」の締結を早めることになった。

さらに、この同盟を機に、日英両国陸海軍の関係が緊密化。七月八日には、共同作戦の指針を定めた「軍事協約」が成立した。日本は、それをもとに陸海軍の軍備を増強、目前の日露開戦に向け準備を進めることになる。

財政上の便益、軍備増強と、どれをとっても「日英同盟」の方が、現実性もメリットも大きいと考えていた。この親露派と親英派の論争は、当時としては親英派に利があったわけですが」と東北大学の黒羽茂名誉教授は語る。「日英同盟」の締結後、ロシアの満州に対する野心は、層層露骨となり、伊藤の憂慮したとおり、両国の関係は日露戦争に向けて悪化の一途をたどった。

## 往きて 還らぬ



▲2月18日 C・L・ティファニー(90)  
米の宝石商で、1851年ティファニー社を創設。流行の商品を生み、英国・ビクトリア女王などを顧客に持った。



▲3月26日 C・J・ローズ(48)  
英の植民地政治家。南アフリカに移住後、金・ダイヤモンド鉱山で巨富を得、1890年ケープ植民地の首相に就任。



▲5月12日 井上達七郎(33)  
医者。近代眼科の草分け・井上達也の息子。ドイツ留学後、「眼科衛生学」などの著書により体系化を試みた。



▲5月28日 小原重哉(67)  
官僚。幕末は尊攘運動を展開。維新後司法省で監獄法を改良。内務省監獄局長、貴族院議員などを歴任。



▲7月18日 西郷従道(59)  
軍人、政治家。西郷隆盛の弟。明治18年海相に就任、以後も歴代内閣の海相・内相を歴任。「薩の海軍」の重鎮。



▲7月23日 宇都宮三郎(67)  
化学技術者。維新後工部省に入り、明治15年工部大技師長。セメントや耐火瓦製造、酒の醸造法などを手かけた。



▲8月18日 西村茂樹(74)  
啓蒙思想家。明治9年東京修身学社創設。20年日本仏道会と改称、日本道徳を提唱し、国粋主義の先駆となった。



▲9月8日 長与専斎(63)  
幕末・明治期の蘭方医。明治7年の医制発布に尽力し、翌年内務省初代衛生局長に就任、衛生行政の基礎を築く。



▲9月29日 エミール・ゾラ(62)  
仏の小説家。一八八〇年「ナナ」を発表。ドレフュス事件では、ドレフュス弁護のために闘い、一時、英国に亡命した。



▲11月22日 F・A・クルップ(48)  
独の製鋼業者。著名な兵器工場経営者、A・クルップの息子で、装甲鋼板などを製造し、クルップ王国の一翼を担った。



▲12月7日 佐野常民(79)  
政治家。文久3年(1863)日本初の蒸気船建造。明治10年博愛社を創設、20年日本赤十字社と改称し、初代社長。



▲12月24日 高山樗牛(31)  
明治期の代表的な評論家。日本主義の後、個人主義を鼓吹、青年層に強い影響を与えた。作品に「美的生活を論ず」。









Cardlet ミネルバ

# Cardlet®

カードレット

## 15枚のカードをスリムに収納

従来の札入れは内側にカード段が付いているだけなので、少量のカードしか収納できないのが現状です。しかし今はカードの時代。多種多様のカードを必携しなければなりません。そこで考え出されたのが“カードレット”。

札入れに差込式のビニール製2段式カードホルダーをとり入れることによって計15枚のカードをスリムに収納することが可能になりました。サイズも11cm×13.5cmと非常にコンパクト。スーツの内ポケットやスラックスのポケットに入れてお使い頂けます。

### ●Cardlet®〈カードレット〉 11cm×13.5cm

ミネルバ ¥10,000(税抜) col.ブラック、ブラウン ウェルチ ¥13,000(税抜) col.ブラック、ブラウン

### 【ハバス ショップ】

新宿高島屋 9F 文具売場 Tel./Fax.03-5361-1594

赤坂東急プラザ 2F Tel./Fax.03-3595-0558

(地下鉄「赤坂見附」、「永田町」より1分)

### “Having Goods”の提案

バッグや革小物といった収納用品が大量に広く普及したのは工業化社会が到来した今からおよそ80年前。そして現在——。電話やパソコンの携帯化など、身の回りの持ち物に大きな変化が現われてきている一方で、依然としてそのクラシカルなスタイルを踏襲し続けている収納用品に、不都合を感じるケースがではじめています。今、バッグや革小物といった収納用品に求められているのは、“機能・軽量・コンパクト”。私達は従来の型にはとらわれず、機能性と使いやすさを最優先に考えた革新的な収納用品を“Having Goods”というくくりで、世の中に提案していきたいと考えています。『時代に対応した多機能型収納用品の提案』これがハバスのテーマです。

H A V A S

チャンドラー株式会社

〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-14  
Tel.03-3267-3971 Fax.03-3267-5095